SEIKO

ASTRON

GPS®
SOLAR

▶ 最初にお読みください

▶ 目次

ユーザーガイド完全版
Complete User Guide

5X53　GPS ソーラーウオッチ（デュアルタイム）

「GPS」は、セイコーホールディングス株式会社の登録商標です。

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、正しくご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。なお、この説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧ください。

※金属バンドの調整は、お買い上げ店にご依頼ください。
ご贈答、ご転居などにより、お買い上げ店での調整が受けられない場合は、弊社お客様相談室へご依頼ください。お買い上げ店以外では有料もしくはお取扱いいただけない場合があります。

※商品に傷防止用の保護シールがはられている場合があります。
必ずはがしてお使いください。はられたままにしておくと、汚れ、汗、ゴミ、水分などが付着してさび発生の原因となります。

製品取扱上のご注意

⚠警告

取り扱いを誤った場合に、重症を負うなどの重大な結果になる危険性が想定される内容を示します。

次のような場合、ご使用を中止してください。

○時計本体やバンドが腐食などにより鋭利になった場合
○バンドのピンが飛び出してきた場合
※すぐに、お買い上げ店・弊社お客様相談室にご連絡ください。

乳幼児の手の届くところに、時計本体や部品を置かないでください。

部品を乳幼児が飲み込んでしまうおそれがあります。
万が一飲み込んだ場合は、身体に害があるため、ただちに医師にご相談ください。

時計から二次電池を取り出さないでください。

※二次電池について→ 使用電源について P.41
二次電池の交換には専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
一般の酸化銀電池が組み込まれると、破裂・発熱・発火などのおそれがあります。

⚠注意

取り扱いを誤った場合に、軽症を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定される内容を示します。

以下の場所での携帯・保管は避けてください。

○揮発性の薬品が発散しているところ（除光液などの化粧品、防虫剤、シンナーなど）
○5℃～35℃を外れる温度に長期間なるところ
○高湿度なところ
○磁気や静電気の影響があるところ
○ホコリの多いところ
○強い振動のあるところ

アレルギーやかぶれを起こした場合

ただちに時計の使用をやめ、皮膚科など専門医にご相談ください。

その他のご注意

○金属バンドの調整は専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
手や指などにけがをする可能性があるほか、部品を紛失する可能性があります。
○商品の分解・改造はしないでください。
○乳幼児に時計が触れないようにご注意ください。
けがやアレルギーをひき起こすおそれがあります。
○使用済み電池の処理は自治体の指示に従ってください。
○提げ時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンの取り扱いにご注意ください。
衣類や手・首などを傷つけたり、首を締めたりするおそれがあります。
○時計を外してそのまま置くと、裏ぶたとバンドや中留が擦れて、裏ぶた表面に傷が付く可能性がありますのでご注意ください。時計を外した場合は、柔らかい布等を挟んで置くことをおすすめします。

⚠警告

この時計はスキューバダイビングや飽和潜水には絶対に使用しないでください。

スキューバダイビングや飽和潜水用の時計に必要とされる過酷な環境を想定した様々な厳しい検査を行っていません。専用のダイバーズウオッチをご使用ください。

⚠注意

直接蛇口から水をかけることは避けてください。

水道水は非常に水圧が高く、日常生活用強化防水の時計でも防水不良になるおそれがあります。

⚠注意

水分のついたまま、りゅうずやボタンを操作しないでください。

時計内部に水分が入ることがあります。

※万が一、ガラス内面にくもりや水滴が発生し、長時間消えない場合は防水不良です。お早めに、お買い上げ店・弊社お客様相談室にご相談ください。

水や汗、汚れが付着したままにしておくのは避けてください。

防水時計でもガラスの接着面・パッキンの劣化やステンレスがさびることにより、防水不良になるおそれがあります。

入浴やサウナの際はご使用を避けてください。

蒸気や石けん、温泉の成分などが防水性能の劣化を早めることがあります。

特 長

■ この時計は、GPS 衛星からの電波を受信し、地球上のどこにいてもすばやくその場所の正確な時刻を表示します。

※この GPS ソーラーウオッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常に GPS 衛星の電波を受信する仕様ではありません。
GPS 衛星の電波の受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。

次のような特長があります。

GPS 衛星電波受信

世界中どこでも、ボタン操作ひとつで現在地の正しい時刻に合わせることができます。DST(サマータイム)を反映した時刻を表示します。

GPS 衛星からの電波を受信し、すばやく時刻を合わせます。

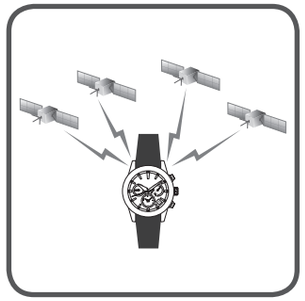
→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

世界の全タイムゾーンに対応しています。

→ タイムゾーンについて P.6

時計を使う地域、タイムゾーンが変わったときは「タイムゾーン修正」の操作を行ってください。

→ タイムゾーン修正のしかた P.20



ソーラー充電

ソーラー充電で動きます。

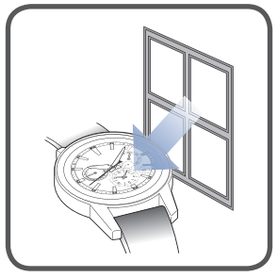
文字板に光を当てて充電してください。

フル充電で約 6 ヶ月間動きます。

エネルギー残量がなくなったとき、フル充電にするには時間がかかるため、こまめに充電をするように心がけてください

→ 充電のしかた P.14

→ 充電にかかる時間のめやす P.14



スーパースマートセンサー(自動時刻修正)

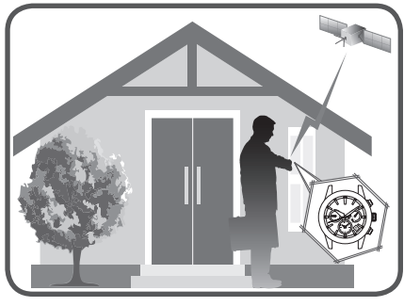
ご使用時の行動パターンに合わせて、自動で時刻修正を行います。

外出時に明るい太陽光を感知したとき等は、自動で GPS 衛星の電波を受信します。ご使用中にもお客様が意識することなく、常に正しい時刻に合わせられる機能です。

→ スーパースマートセンサー(自動時刻修正)について P.29

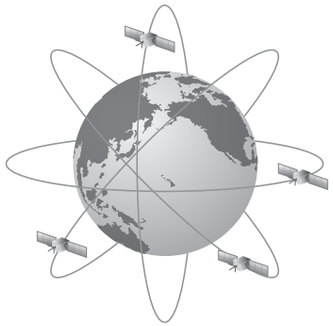
※充電量が不足しているときは受信を行いません。

→ エネルギー残量を確認する P.13



GPS ソーラーウオッチが時刻・日付を合わせるしくみ

GPS 衛星について



米国国防総省が管理する衛星（正式名称は NAVSTAR）で、高度約 2 万 km の軌道上を回っています。

本来は軍事目的の衛星でしたが、現在は情報の一部が民生用に開放されていて、カーナビゲーション、携帯電話等多くの機器で利用されています。

GPS 衛星には、誤差 10 万年に 1 秒という高精度の原子時計が搭載されています。

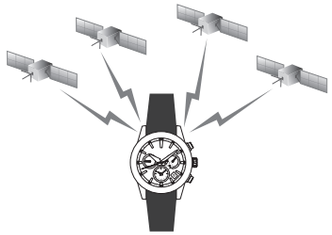
この時計が時刻・日付を合わせるしくみ

この時計では GPS 衛星からの電波を受信し、以下の情報をもとに時刻・日付を合わせます。

- 原子時計に基づく正確な時刻・日付
- 今いる場所のタイムゾーンと DST（サマータイム）の実施情報
  （ 基本 4 基以上の GPS 衛星により、今いる場所を測位し、世界の全タイムゾーンのどこにいるか、また DST（サマータイム）の実施内容を特定します。）

※今いる場所のタイムゾーンの情報を受信するには、タイムゾーン修正の操作をする必要があります。
→ タイムゾーン修正のしかた P.20

※この GPS ソーラーウオッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常に GPS 衛星の電波を受信する仕様ではありません。
GPS 衛星の電波の受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。



タイムゾーンについて

タイムゾーン

世界各地には協定世界時(UTC)を基準にして、その国や地域で共通して使用する標準時があります。
標準時は国や地域により決められており、同じ標準時を使う地域全体をタイムゾーンと言い、現在 39 のタイムゾーンに分かれています(2018 年 3 月時点)。

DST(サマータイム):Daylight Saving Time =デイライト セイビングタイム

地域によっては個別に【DST(サマータイム)】が設定されています。サマータイムとは、夏時間のことです。
夏の日照時間の長いときに、時刻を通常 1 時間進めて昼間の時間を長くする制度です。
欧米を中心に世界の約 80 ヶ国で実施されています。DST(サマータイム)の実施期間は、実施地域や国によって様々です。
タイムゾーン修正が成功すると、受信した地域の DST(サマータイム)の実施情報を反映した時刻を表示します。
※各地域の DST(サマータイム)は、国または地域の都合により変更される場合があります。

協定世界時(UTC):Coordinated Universal Time = コーディネイテッド ユニバーサルタイム

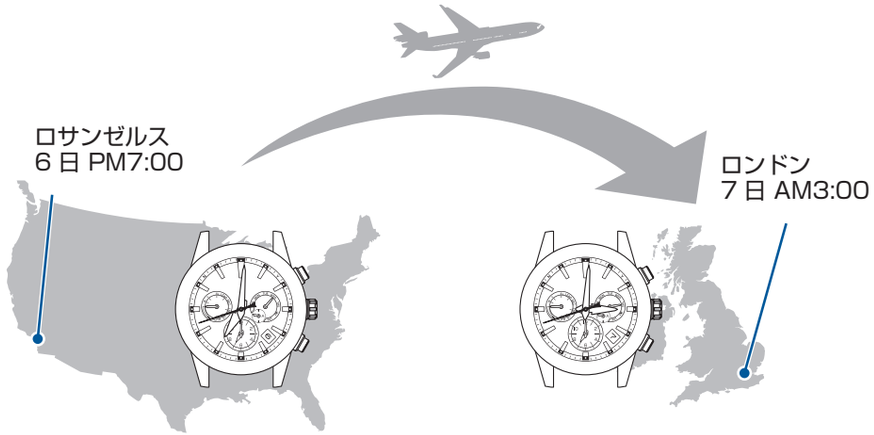
UTC は国際協定により定められた世界共通の標準時です。全世界で時刻を記録する際に公式な時刻として使われています。天文学的に定められた世界時(UT)とのずれを補正するため、
世界中にある原子時計を元に決められた「国際原子時(TAI)」にうるう秒を加えて、調整をした時刻が UTC となります。

このような使いかたがあります

時計を使う地域、タイムゾーンが変わったとき

タイムゾーン修正を行ってください。
今いる地域の正確な時刻（DST（サマータイム）も含む）を表示します。

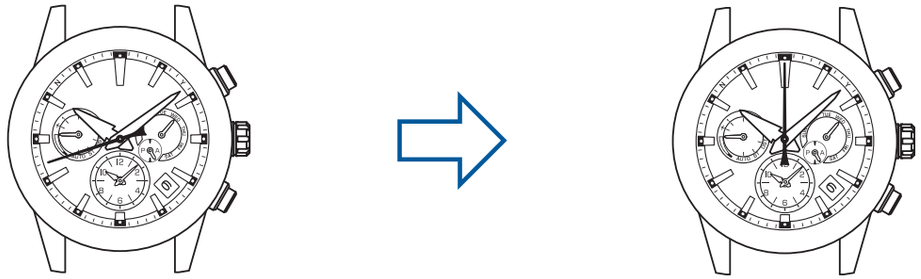
→ タイムゾーン修正について P.19
→ タイムゾーンについて P.6
→ タイムゾーン表示と時差一覧 P.12



時刻のみを合わせたいとき

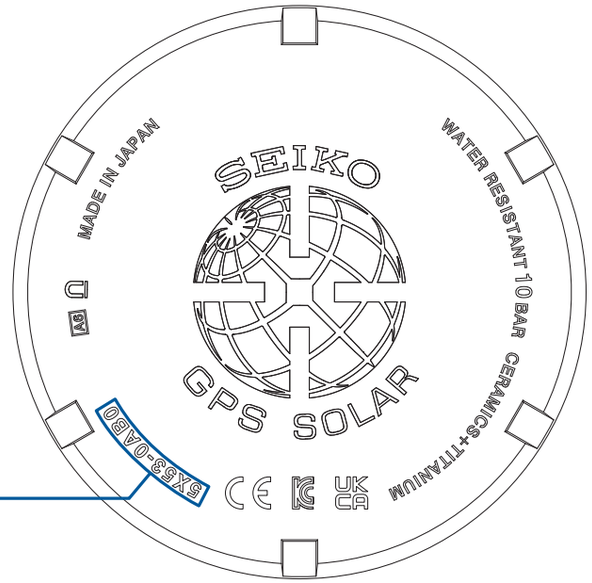
「強制時刻修正」の操作をすることで設定されている
タイムゾーンの正確な時刻を表示します。

→ 強制時刻修正のしかた P.22
→ タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する P.25



タイムゾーン情報の制定時期確認方法

時計の裏ぶたで型式の確認ができます。



型式番号
お客様の時計の
種類を示す番号

※表示内容は、モデルによって異なる場合があります。

この商品のタイムゾーン情報の制定時期は、裏ぶたの型式番号でご確認いただくことができます。

詳しくは、下記 URL にてご確認ください。
https://www.seikowatches.com/jp-ja/customerservice/gpstimezonedatainfo/

お客様がお持ちの時計のタイムゾーンや DST（サマータイム）情報の制定時期以降にタイムゾーン等が変更された地域では、GPS 電波受信によるタイムゾーン修正操作を行っても、正しい時刻を表示することができません。正しい時刻表示のためには下記の操作を行ってくださいますようお願いいたします。

＜タイムゾーンや DST（タイムゾーン）が変更された地域で、この商品の時刻合わせをする場合＞

1. 手動タイムゾーン選択によって該当地域の最新の時間帯に適したタイムゾーンを選択、および必要に応じて DST（サマータイム）の設定を行ってください。
   詳しくは「基本時計の DST（サマータイム）の設定をする」 P.24 をご参照ください。
2. 次に、強制時刻修正により時刻合わせを行ってください。
   詳しくは「強制時刻修正について」 P.21 をご参照ください。
3. 同じタイムゾーン内でお使いいただく場合は、そのままのタイムゾーン設定にしておけば、その後も自動時刻修正または強制時刻修正により、常に正確な時刻が表示されます。
4. また、タイムゾーンが変更された地域から別のタイムゾーンの地域に移動してタイムゾーン修正を行った後に、タイムゾーンが変更された当該地域に戻ってきた場合にも、正しい時刻表示のためには上記 1.～3. と同様の操作をしてください。

目次

1. 最初にお読みください 2
   - 製品取扱上のご注意 2
   - 特 長 4
   - GPS ソーラーウオッチが時刻・日付を合わせるしくみ 5
   - タイムゾーンについて 6
   - このような使いかたがあります 7
   - タイムゾーン情報の制定時期確認方法 8

2. 目次 9

3. ご使用の前に 10
   - 各部の名称 10
   - インジケータ針の表示、受信結果表示について 11
   - タイムゾーン表示と時差一覧 12
   - エネルギー残量を確認する 13
   - 充電について 14

4. 基本操作(時刻の合わせかた／受信のしかた等) 15
   - 基本操作フロー 15
   - GPS 電波受信について 16
   - GPS 電波受信によりタイムゾーンと時刻を合わせる(タイムゾーン修正) 19
   - GPS 電波受信により時刻のみを合わせる(強制時刻修正) 21
   - 飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき(手動タイムゾーン選択) 23
   - DST(サマータイム)の設定をする 24
   - 小時計の時刻を合わせる 26
   - 基本時計と小時計の入れ替え(タイムトランスファー機能)について 28
   - スーパースマートセンサー(自動時刻修正)について 29
   - 飛行機に乗るとき(機内モード(✈)について) 30
   - うるう秒について(うるう秒自動受信機能) 31

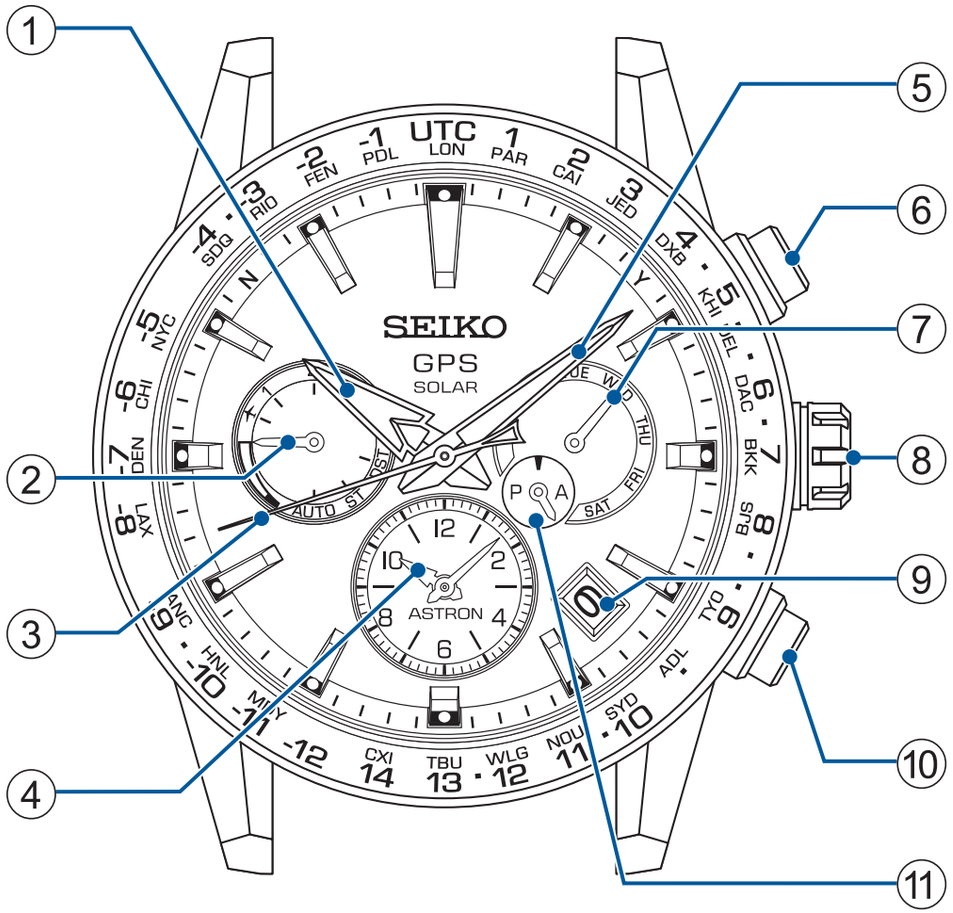
5. 秒針の動きが変だなと思ったら 33
   - 秒針の動きと時計の状態(エネルギー切れ予告機能) 33

6. ご注意いただきたいこと 34
   - お手入れについて 34
   - 性能と型式について 34
   - 防水性能について 34
   - 耐磁性能について(磁気の影響) 35
   - バンドについて 36
   - スマートアジャスター機構つき中留(なかどめ)の使いかた 37
   - 三つ折れ式中留(なかどめ)の使いかた 38
   - 三つ折れ式中留(剣先潜りタイプ)の使いかた 39
   - ルミブライトについて 40
   - 使用電源について 41
   - アフターサービスについて 42

7. 困ったときは 43
   - GPS 電波の受信ができないとき 43
   - 電波が受信できない環境で時刻を合わせる(手動時刻合わせについて) 43
   - 小時計、曜針、日付、インジケータ針、時・分・秒針の位置がずれているとき 45
   - こんなときは 49

8. 機能一覧／製品仕様 53
   - 索　引 53
   - 製品仕様 54

各部の名称



① 時針

② インジケータ針

③ 秒針

④ 小時計（12時間制）

⑤ 分針

⑥ ボタンA

⑦ 曜針（曜日）

⑧ りゅうず

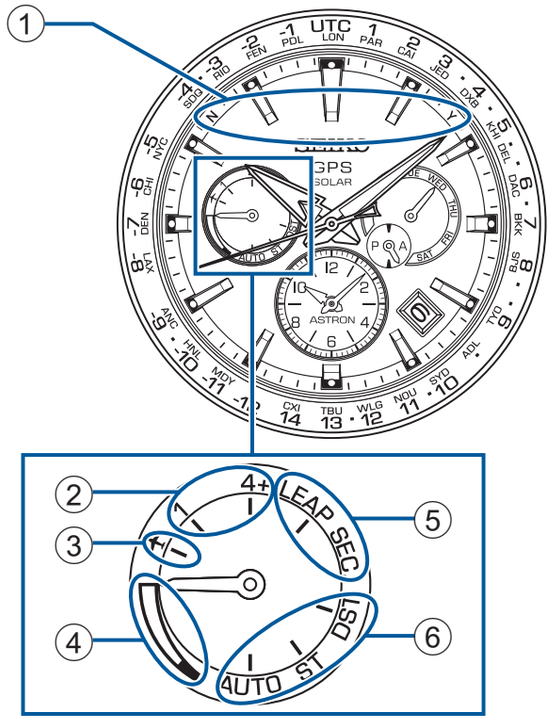
⑨ 日付

⑩ ボタンB

⑪ 小時計のAM/PM針

※各表示の位置は、モデル（デザイン）によって異なる場合があります。

インジケータ針の表示、受信結果表示について



※各表示の位置は、モデル(デザイン)によって異なる場合があります。

① 受信結果表示

Y　　：受信成功(8 秒位置)
N　　：受信失敗(52 秒位置)

→受信結果確認 P.18

② 受信方法の表示

受信の方法	1(時刻修正)	4+(タイムゾーン修正)
表示		

→受信結果確認 P.18
→タイムゾーン修正 P.19
→強制時刻修正 P.21
→自動時刻修正 P.29

③ 機内モード(✈)の表示

針の位置	機内モード(✈)状態
表示	

→機内モードについて P.30

④ エネルギー残量の表示

針の位置	十分	中くらい	少ない
表示			

→エネルギー残量を確認する P.13
→充電のしかた P.14

⑤ うるう秒情報受信の表示

針の位置	うるう秒情報受信
表示	

→うるう秒情報受信 P.31

⑥ DST(サマータイム)表示

針の位置	AUTO(自動)	ST(解除)	DST(設定)
表示			

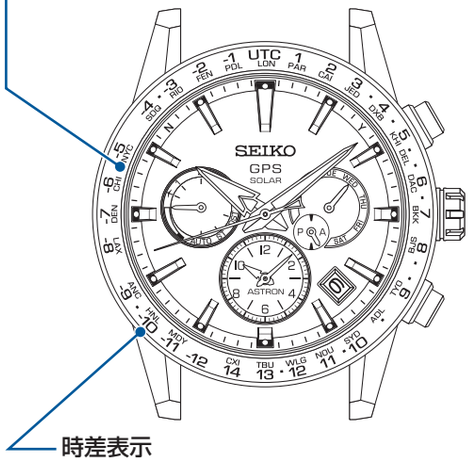
→タイムゾーンと DST(サマータイム)の設定を確認する P.25
→DST(サマータイム)の設定をする P.24

タイムゾーン表示と時差一覧

ベゼルやダイヤルリングなどの表示は UTC からの時差の関係を表しています。
手動タイムゾーン選択をするときに参考にしてください。

★ の地域では DST(サマータイム)が導入されています。
☆ オーストラリア領のロード・ハウ島ではサマータイム実施時、30 分時刻を進めています。この時計はロード・ハウ島のサマータイムに対応しています。

タイムゾーン表示
代表都市名:
世界の全タイムゾーンのうちの 28 都市
時差:
+14〜− 12 時間
→ タイムゾーンと DST(サマータイム)の設定を確認する P.25
→ タイムゾーン修正 P.19



時差表示

※都市表示と UTC 時差表示はモデルによって異なる場合があります。
※時差表示の数字の間にある「•」は、その位置にタイムゾーンが存在することを示しています。

都市表示	時差表示	代表都市名(タイムゾーン)	UTC からの時差
LON	UTC	★ ロンドン/UTC	0 時間
PAR	1	★ パリ / ★ ベルリン	+ 1 時間
CAI	2	カイロ	+ 2 時間
JED	3	ジッダ	+ 3 時間
•	•	★ テヘラン	+3.5 時間
DXB	4	ドバイ	+ 4 時間
•	•	カブール	+4.5 時間
KHI	5	カラチ	+ 5 時間
DEL	•	デリー	+5.5 時間
•	•	カトマンズ	+5.75 時間
DAC	6	ダッカ	+ 6 時間
•	•	ヤンゴン	+6.5 時間
BKK	7	バンコク	+ 7 時間
BJS	8	北京	+ 8 時間
•	•	ピョンヤン	+8.5 時間
•	•	ユークラ	+8.75 時間
TYO	9	東京	+ 9 時間
ADL	•	★ アデレード	+9.5 時間
SYD	10	★ シドニー	+10 時間
•	•	☆ ロード・ハウ島	+10.5 時間

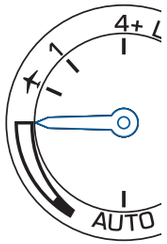
都市表示	時差表示	代表都市名(タイムゾーン)	UTC からの時差
NOU	11	ヌーメア	+ 11 時間
WLG	12	★ ウェリントン	+ 12 時間
•	•	★ チャタム諸島	+12.75 時間
TBU	13	ヌクアロファ	+ 13 時間
CXI	14	キリスィマスィ島	+14 時間
•	−12	ベーカー島	−12 時間
MDY	−11	ミッドウェー島	−11 時間
HNL	−10	ホノルル	−10 時間
•	•	マルケサス諸島	−9.5 時間
ANC	−9	★ アンカレッジ	−9 時間
LAX	−8	★ ロサンゼルス	−8 時間
DEN	−7	★ デンバー	−7 時間
CHI	−6	★ シカゴ	−6 時間
NYC	−5	★ ニューヨーク	−5 時間
SDQ	−4	サントドミンゴ	−4時間
•	•	★ セント・ジョンズ	−3.5 時間
RIO	−3	★ リオデジャネイロ	−3 時間
FEN	−2	フェルナンド・デ・ノローニャ諸島	−2 時間
PDL	−1	★ アゾレス諸島	−1 時間

※各地域のタイムゾーンおよび DST(サマータイム)の導入については 2018 年 3 月時点のものです。

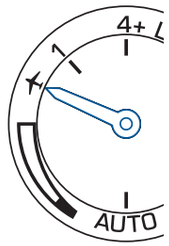
エネルギー残量を確認する

インジケータ針の位置で、この時計が受信ができる状態か確認できます。
また、エネルギーが少ない状態については、秒針の動きによって、より詳しくエネルギー不足の程度を確認することができます。
※GPS 電波受信を行うには、たくさんのエネルギーが必要です。こまめに光を当て、充電することを心がけてください。→ 充電について P.14

○ 受信できる状態

インジケータ表示	エネルギー残量	このようにしてください
	十分	受信できる状態です。 このままご使用ください。 → P.15
	中くらい	受信できる状態です。 充電を心がけながらご使用ください。 → P.15

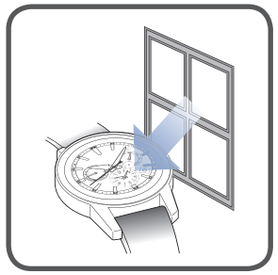
× 受信できない状態

インジケータ表示	秒針の動き	エネルギー残量		このようにしてください
	1 秒運針	少ない	受信はできませんが、時計を動かすエネルギーはあります。	受信ができるように、少なくともインジケータ針が「中くらい」になるまで充電をしてください。 → 充電について P.14
	2 秒運針	–	受信ができない上に、時計を動かすエネルギーも不足しています。(エネルギー切れ予告機能がはたらいています → P.33)	時計を動かし続けられ、かつ、受信ができるように、少なくともインジケータ針が「中くらい」になるまで充電を継続してください。 → 充電について P.14
	5 秒運針			
	–	機内モード(✈)のため、エネルギー残量は表示されません。		機内モード(✈)を解除できる環境であれば、機内モード(✈)を解除してください。 → 機内モード(✈)状態を解除する P.30 インジケータ針が「少ない」を指している場合には、上記に従って充電を行ってください。 → 充電について P.14

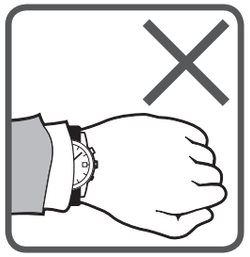
充電について

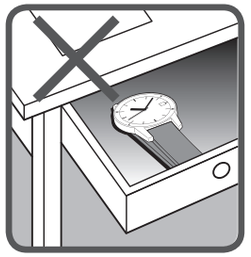
■ 充電のしかた

文字板に光をあてて充電してください。



快適にご使用いただくために、
十分な充電をすることを心がけましょう。





以下の状況では充電不足によりエネルギーが切れ、時計が止まる可能性が高くなります。

- 時計が衣類のそでの中に隠れている
- 光のあたりにくい環境での使用や保管が続く

※充電の際は、時計が高温にならないように注意し、強い日光に長時間当てることは避けてください。
（作動温度範囲は－10℃～＋ 60℃です。）

※使いはじめ、または充電不足で停止していた時計を駆動させるときは、右の表をめやすに十分な充電を行ってください。

■ 充電にかかる時間のめやす

以下の時間をめやすに、充電を行ってください。

GPS 電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。こまめに光を当て、インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるように充電することを心がけてください。（エネルギー残量が「少ない」になると、GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）

→ エネルギー残量を確認する P.13

照 度 lx（ルクス）	光 源	環 境（めやす）	時計が止まっている（充電されていない）状態から		運針している（充電されている）状態で
			フル充電まで	確実に 1 秒運針になるまで	1 日ぶん動かすには
700	蛍光灯	一般オフィス内	–	–	3.5 時間
3000	蛍光灯	30W 20cm	420 時間	12 時間	1 時間
1 万	太陽光 蛍光灯	くもり 30W 5cm	115 時間	4 時間	15 分
10 万	太陽光	快晴（夏の直射日光下）	50 時間	1.5 時間	10 分

「確実に 1 秒運針になるまで」の数値は、止まっていた時計に光をあてて、確実に 1 秒運針になるまでに必要な充電時間のめやすです。この時間まで充電しなくても 1 秒運針になりますが、その状態ではすぐに 2 秒運針になることがあります。この時間をめやすに充電してください。

※充電に必要な時間は、モデルによって若干異なります。

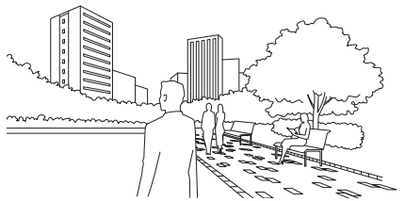
基本操作フロー

- 時計を使う地域、タイムゾーンが変わったとき
- 時刻のみを合わせたいとき

1.GPS 電波が受信しやすい場所か確認する

→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

GPS 電波が受信しやすい環境にいる



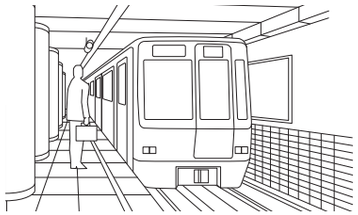
空が見えて、視界が広い屋外

2.タイムゾーンの設定、時刻・日付を合わせる

＜ GPS 電波受信による設定＞

電波を受信して タイムゾーンの設定、 時刻・日付を合わせる ※タイムゾーン修正により、DST（サマータイム）を含む時刻になります。	→ タイムゾーン修正のしかた　P.20
時刻のみを合わせる	→ 強制時刻修正のしかた　P.22

GPS 電波が受信できない環境にいる



例. 地下鉄構内

＜手動による設定＞

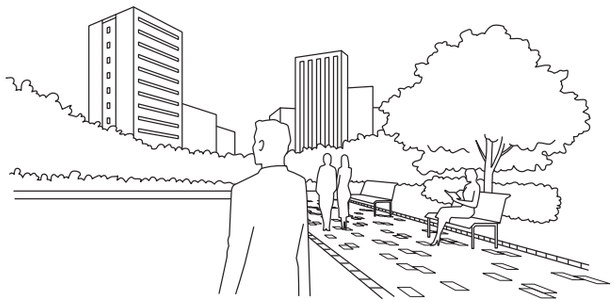
→ タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する　P.25	タイムゾーンの設定が合っていない　→ 基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた　P.23
	タイムゾーンの設定が合っている　→ 手動時刻合わせのしかた　P.44

GPS 電波受信について

■ 受信しやすい場所・受信できない場所

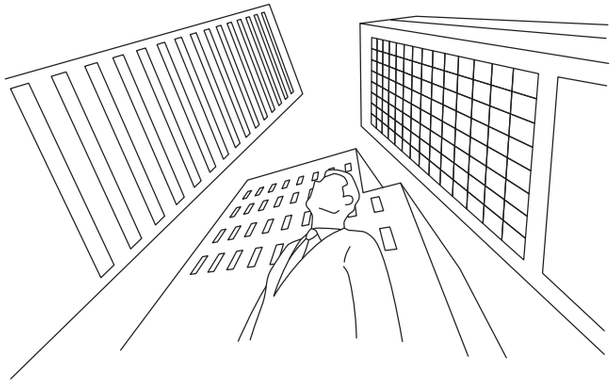
○ 受信しやすい

- 空が見えて、視界が広い屋外



△ 受信しにくい

- 空が見える範囲が狭くなるほど受信しにくくなります。また、受信中（特にタイムゾーン修正を行うとき）に電波をさえぎるものがある場合も受信しにくくなります。

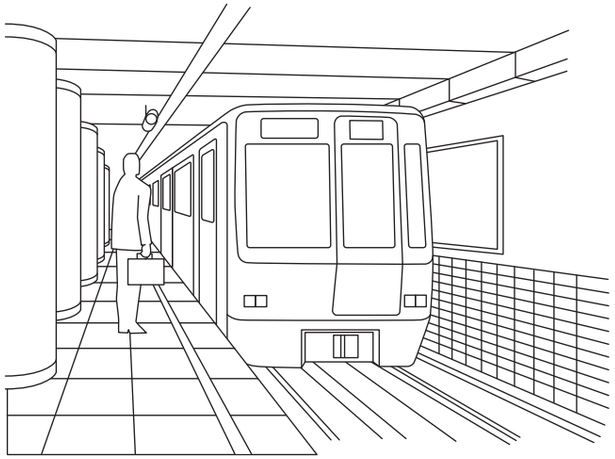


例
- ビルの谷間
- 木々の近く
- 駅・空港
- 窓のある屋内

※窓ガラスの種類によっては受信ができません。
「× 受信できない」を確認してください。

× 受信できない

- 空が見えない、一部しか見えない
- 受信をさまたげるものがある



例
- 窓のない屋内
- 地下
- トンネル通過中
- 熱放射遮断効果等のある特殊ガラス越し
- ノイズを発する機器、無線通信を行う機器の近く

GPS 電波受信の一覧（全 3 種類の特長）

受信方法	時刻修正	タイムゾーン修正	うるう秒情報受信
表示	強制時刻修正 → P.21 自動時刻修正 → P.29	タイムゾーン修正 → P.19	
特長	**時刻修正** 設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻を表示	**タイムゾーンの特定と時刻修正** 今いる場所のタイムゾーンを特定し、DST（サマータイム）実施状況を反映した正確な現在時刻を表示	**うるう秒受信** うるう秒情報受信 → P.31
受信に必要な衛星の数	1 基（時刻情報のみを取得するため）	基本 4 基以上（時刻情報、タイムゾーンの情報を取得するため）	–
受信にかかる時間	3 秒～1 分	30 秒～2 分	30 秒～18 分
どういうときに	タイムゾーンが変わらない地域で使っていて正確な時刻に合わせたいとき	タイムゾーンの違う地域に行ったとき	6 月 1 日と 12 月 1 日以降に GPS 電波受信（自動時刻修正、強制時刻修正またはタイムゾーン修正）を行った後、自動的に行います。

GPS 電波受信　Q&A

Q：タイムゾーンの違う地域に移動したときは、自動的に現地の時刻になりますか？
A：移動しただけでは現地の時刻になりません。
GPS 電波が受信しやすい場所にいるときはタイムゾーン修正をしてください。
自動的に現地の時刻を表示します。
GPS 電波が受信できない場所にいるときは手動タイムゾーン選択をしてください。
→ 基本時計の手動タイムゾーン選択について　P.23
（世界の全タイムゾーンに合わせることができます。）

Q：DST（サマータイム）は GPS 電波受信をすることで自動的に変わりますか？
A：タイムゾーン修正をすることで、DST（サマータイム）の設定が自動で行われます。
DST（サマータイム）実施地域の場合、DST（サマータイム）実施時期に合わせ時刻が自動で切り替わります。
DST（サマータイム）を実施しない地域の場合は、常時「通常時刻」を表示します。同じタイムゾーンのエリアでも DST（サマータイム）の実施内容が異なる場所に移動した際は、DST（サマータイム）を手動で切り替えてください。
→ DST（サマータイム）の設定をする　P.24
同じタイムゾーンの中でも、DST（サマータイム）を採用していない国や地域があります。
→ タイムゾーン表示と時差一覧　P.12

Q：うるう秒が挿入される年は、特別な操作が必要ですか？
A：特別な操作は必要ありません。
6 月 1 日と 12 月 1 日以降の GPS 電波受信（自動時刻修正、強制時刻修正またはタイムゾーン修正）と同時にうるう秒情報の受信を行うため、定期的に GPS 電波を受信をすることで自動的にうるう秒が挿入されます。詳しくは「うるう秒について（うるう秒自動受信機能）」 P.31 を確認してください。

■ 受信ができているか確認する（受信結果確認について）

最後に GPS 電波受信を行ったときの、受信の種類と受信した結果（成否）を 5 秒間表示します。

1 ボタン A を押して、離す

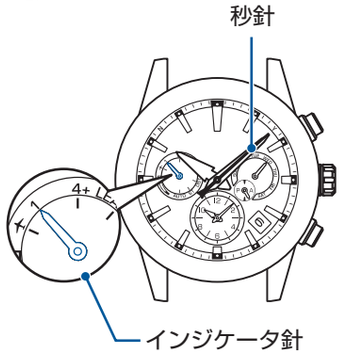
秒針とインジケータ針が受信結果を表示します。

※ボタン A を押し続けると強制時刻修正の動作に入ります。

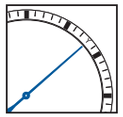
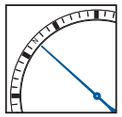
2 受信の結果が表示される

秒針が GPS 電波受信（時刻修正またはタイムゾーン修正）の結果を表示します。

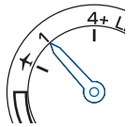
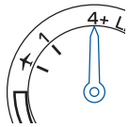
インジケータ針は、その時の受信方法（「1」または「4+」）を指します。



秒針：受信結果（成否）

結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	Y：8 秒位置	N：52 秒位置

インジケータ針：
受信方法（時刻修正またはタイムゾーン修正）

種 類	1（時刻修正）	4+（タイムゾーン修正）
表 示		

※タイムゾーン修正の場合は「4+」を指します。

※5 秒経過、またはボタン B を押すと時刻表示に戻ります。

受信結果が Y になったときは

- 受信ができています。
  そのままお使いください。

受信結果が N になったときは

- 受信ができていません。
  必要に応じて屋外などの、GPS 電波が受信しやすい場所で受信させてください。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

※受信に成功してから約 4 日経過すると、受信結果表示は「N」になります。

※GPS 電波受信ができない状態でもクオーツの精度（月差± 15 秒）で動いています。

どうしても受信がうまくいかないときは、手動で時刻を合わせてください。

→ 手動時刻合わせのしかた P.44

GPS 電波受信によりタイムゾーンと時刻を合わせる（タイムゾーン修正）

タイムゾーン修正について

世界中どこにいても、ボタン操作ひとつで今いる場所のタイムゾーンを特定し、現在地の正しい時刻に合わせることができます。

受信した地域の DST（サマータイム）の実施情報を反映します。

DST（サマータイム）実施地域の場合、DST（サマータイム）実施時期に合わせ時刻が自動で切り替わります。

DST（サマータイム）を実施しない地域の場合は、つねに「通常時刻」を表示します。

→ タイムゾーン修正のしかた P.20

※受信の成否は受信環境によって左右されます。→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

※GPS 電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。
こまめに光を当て、インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるように充電をすることを心がけてください。
→ 充電のしかた　P.14
（エネルギー残量が「少ない」になると、GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）
→ エネルギー残量を確認する　P.13

タイムゾーン修正に関する注意事項

タイムゾーンの境界線付近でタイムゾーン修正を行うと、隣接するタイムゾーンの時刻が表示されることがあります。

これはしくみ上起こりうることで、故障ではありません。

その場合には手動タイムゾーン選択でタイムゾーンの設定をしてください。

→ 基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた P.23

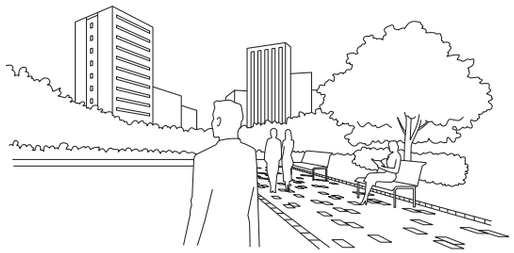
陸路の移動途中でタイムゾーン修正を行う際はタイムゾーン境界付近を避け、できるだけそのタイムゾーンの代表的な都市で行うようにしてください。

また、タイムゾーン境界線付近で使用するときは、必ずタイムゾーンの設定を確認し、必要に応じて手動でタイムゾーンの設定を行ってください。

タイムゾーン修正のしかた

1 受信しやすい場所へ行く

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。

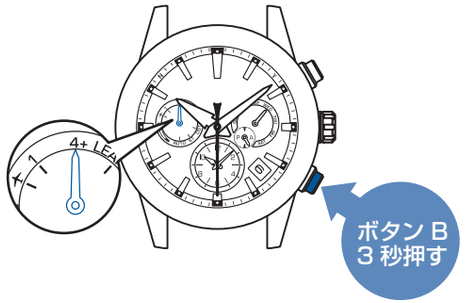


→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

2 ボタン B を押し続けて（3 秒）秒針が 30 秒位置に移動したら離す

秒針が 30 秒位置に移動して受信がはじまります。

インジケータ針は「4+」を指します。



※インジケータ針が「少ない」または ✈ を指しているときは受信の操作をしても受信が始まりません。「少ない」を指しているときは、光をあてて充電してください。→ 充電のしかた　P.14

※この時計が受信できる状態か確認する
→ エネルギー残量を確認する　P.13

※ ✈ を指しているときは、機内モード(✈)を解除してください。
→ 機内モード(✈)状態を解除する　P.30

3 時計を真上に向けたまま待つ

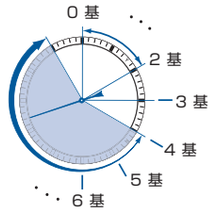
※移動中は受信しにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

受信終了までにかかる時間は、最長 2 分です。
※受信の状況によります。

<受信中の表示（捕捉衛星数）>

秒針が受信のしやすさ（受信中の GPS 衛星の数）を示します。

※捕捉衛星数が多いほど、受信しやすい状態です。



衛星数	受信のしやすさ
4 基以上	受信しやすい
3 基	受信できる可能性がある
2〜0 基	受信できない

※表示が 4 基以上を示していても、受信できない場合があります。

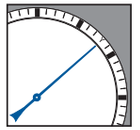
※受信をキャンセルさせるときは、ボタン B を押してください。

4 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

受信結果が 5 秒間表示されます。

受信に成功の場合は、時刻・日付などが合います。

タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を反映した時刻を表示します。

受信結果表示	Y：成功（8 秒位置）	N：失敗（52 秒位置）
表示		
状況	そのままお使いください。	受信結果が「N」になったときは→ P.16

時刻表示に戻ったあとに受信ができたか確認する

→ 受信ができているか確認する（受信結果確認について）P.18

※時分針・インジケータ針・日付・曜日が動いている間は、ボタンの操作はできません。

GPS 電波受信により時刻のみを合わせる（強制時刻修正）

■ 強制時刻修正について

設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻に合わせることができます。
（タイムゾーンの変更は行いません。）

→ 強制時刻修正のしかた P.22
→ タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する P.25

※強制時刻修正では、設定されているタイムゾーンの正確な時刻を表示します。
時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときはタイムゾーン修正をしてください。→ タイムゾーン修正のしかた P.20
（タイムゾーン修正を行うとタイムゾーンの設定と時刻・日付が合うため、直後に強制時刻修正をする必要はありません。）

※タイムゾーン修正（受信）を成功させて、DST ＝ AUTO になった場合以外は、DST（サマータイム）は自動では設定されません。手動で設定を行なってください。→ DST（サマータイム）の設定をする P.24

※受信の成否は受信環境によって左右されます。→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

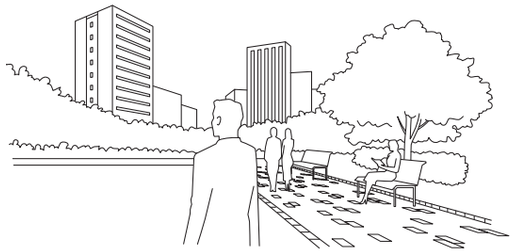
※強制時刻修正を行い受信に成功した時刻は自動時刻修正を行う時刻となることがあります。詳しくは「スーパースマートセンサー（自動時刻修正）について」 P.29 をご確認ください。

※GPS 電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。
こまめに光を当て、インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるように充電をすることを心がけてください。→ 充電のしかた P.14
（エネルギー残量が「少ない」になると、GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）
→ エネルギー残量を確認する P.13

■ 強制時刻修正のしかた

1 受信しやすい場所へ行く

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。



→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

2 ボタン A を押し続けて（3 秒）秒針が 0 秒位置に移動したら離す

秒針が 0 秒位置に移動して受信がはじまります。

インジケータ針は「1」を指します。

※インジケータ針が「少ない」または ✈ を指しているときは受信の操作をしても受信が始まりません。「少ない」を指しているときは、光をあてて充電してください。→ 充電のしかた　P.14

エネルギー残量を確認する　P.13

※ ✈ を指しているときは、機内モード(✈)を解除してください。

→ 機内モード(✈)状態を解除する　P.30

3 時計を真上に向けたまま待つ

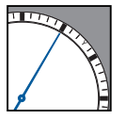
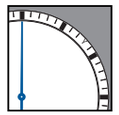
受信にかかる時間は、最長 1 分です。

※受信時間は受信の状況によります。

<受信中の表示（捕捉衛星数）>

秒針が受信のしやすさ（受信中の GPS 衛星の数）を示します。

※時刻情報のみを取得するため、受信に必要な衛星の数は 1 基です。

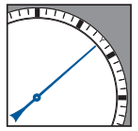
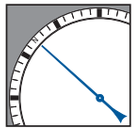
捕捉衛星数	1 基	0 基
表　示		
状　況	受信しやすい	受信できない

※受信をキャンセルさせるときは、ボタン B を押してください。

4 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

受信結果が 5 秒間表示されます。

受信が成功すると、時刻・日付・曜日が合います。

受信結果表示	Y：成功（8 秒位置）	N：失敗（52 秒位置）
表示		
状況	そのままお使いください。	受信結果が「N」になったときは→ P.16

時刻表示に戻ったあとに受信ができたか確認する

→ 受信ができているか確認する（受信結果確認について）P.18

「Y」と表示されても時刻が合わないときは、タイムゾーンや DST（サマータイム）の設定が今いる場所と合っていない可能性があります。タイムゾーンや DST の設定を確認してください。

→ タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する P.25

※時分針・インジケータ針・日付・曜日が動いている間は、ボタンの操作はできません。

飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき（手動タイムゾーン選択）

■ 基本時計の手動タイムゾーン選択について

→ 小時計の手動タイムゾーン選択について P.26

タイムゾーン修正ができない場所では、手動でタイムゾーンを設定できます。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

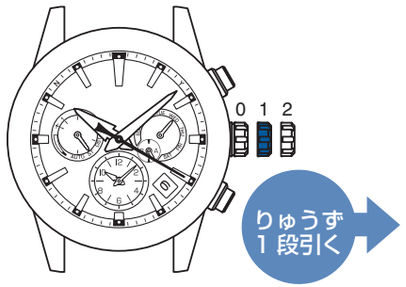
「タイムゾーン表示と時差一覧」 P.12 をめやすに、タイムゾーンを設定することで、その場所の時刻・日付に合わせることができます。

※DST（サマータイム）＝ AUTO（自動）だった状態から、手動タイムゾーン選択を行うと ST（解除）または DST（設定）に切り替わりますので、ご注意ください。
基本時計の DST（サマータイム）の設定は、「基本時計の DST（サマータイム）の設定をする」 P.24 で行ってください。

■ 基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた

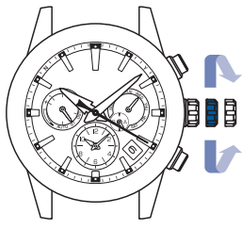
1 りゅうずを 1 段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている基本時計のタイムゾーンを表示します。



2 りゅうずを回して秒針を目的地のタイムゾーンに合わせる

りゅうずを回すと秒針が動き、となりのタイムゾーンに移動します。



りゅうずを右に回すと＋ 1 タイムゾーン移動します。

りゅうずを左に回すと－1 タイムゾーン移動します。

＜インジケータ針の表示＞

DST（サマータイム）の設定または解除を表示しています。

針の位置	AUTO（自動）	ST（解除）	DST（設定）
表示			

※タイムゾーン選択の前に「AUTO（自動）」の場合も、新たなタイムゾーンを選択したときに、DST（設定）または ST（解除）に切り替わります。

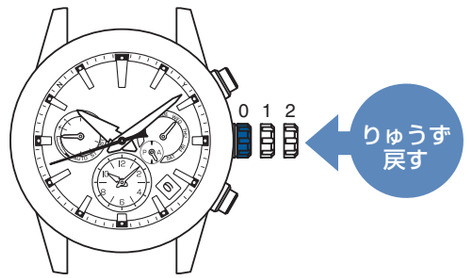
※基本時計の DST（サマータイム）の設定が合っていないときは、「基本時計の DST（サマータイム）の設定をする」 P.24 の 2 の操作で設定または解除に切り替えてください。

3 りゅうずを押し戻す

秒針が時刻表示に戻ります。

インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。

※時分針・インジケータ針・日付・曜日が動いている間は、ボタンの操作はできません。



DST(サマータイム)の設定をする

■ 基本時計の DST(サマータイム)の設定をする

→ 小時計の DST(サマータイム)の設定をする P.27

※手動タイムゾーン選択をした場合は、DST(サマータイム)が AUTO(自動)にはなりません。
サマータイムの実行／解除の状況に応じて、手動で DST(サマータイム)の設定／解除を行ってください。

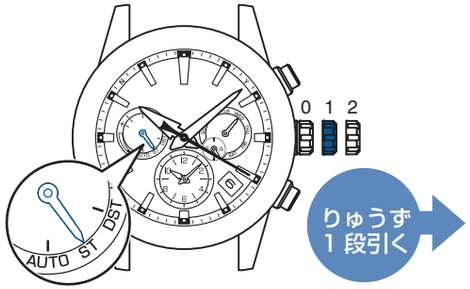
手動で基本時計を DST(サマータイム)に設定することができます。
次の場合には、必ず設定してください。

- 手動タイムゾーン選択で、基本時計を合わせ、DST(サマータイム)が実施されている場合。
- 同じタイムゾーンであるが、DST(サマータイム)の設定が異なるエリアに移動した場合。

1 りゅうずを 1 段引きだす

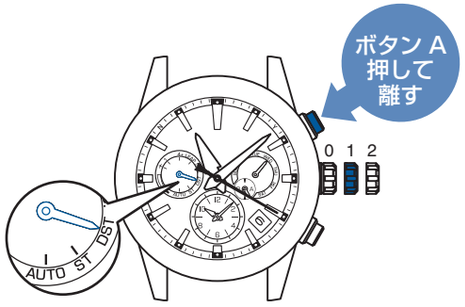
インジケータ針が、基本時計の DST(サマータイム)の設定を表示します。
秒針は現在の基本時計のタイムゾーンを表示します。

＜ DST(サマータイム)の設定が解除の状態＞



2 ボタン A を押して、離す

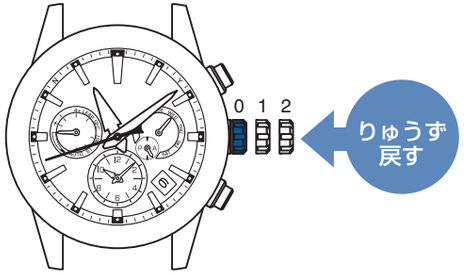
インジケータ針が動いて「DST」を指し、基本時計の時分針が 1 時間進みます。



※オーストラリア領のロード・ハウ島ではサマータイム実施時、30 分時刻を進めています。

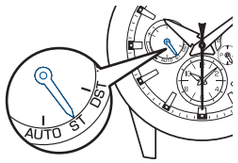
3 りゅうずを押し戸す

秒針が時刻表示に戻ります。
インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。



■ 基本時計の DST(サマータイム)の設定を解除する

DST(サマータイム)が設定されているとき 1 〜 3 の操作を行ってください。
2 の操作ではインジケータ針を右図の位置「ST(解除)」に合わせてください。
時分針が 1 時間戻ります。



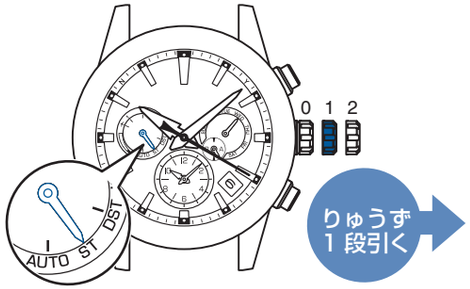
タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する

基本時計と小時計のタイムゾーンと DST（サマータイム）をそれぞれ確認することができます。

※基本時計の現在のタイムゾーンと DST（サマータイム）は、りゅうず 0 段でボタン B を押し離しするだけでも確認できます。

1 りゅうずを 1 段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている基本時計のタイムゾーンを表示します。
インジケータ針は基本時計の DST（サマータイム）の状態を表示します。



＜インジケータ針の表示＞
DST（サマータイム）の状態を表示しています。

針の位置	AUTO（自動）	ST（解除）	DST（設定）
表示			

AUTO（自動）：
DST（サマータイム）を実施している地域において、タイムゾーン修正が成功している場合です。
基本時計に設定されているタイムゾーン（地域）の DST（サマータイム）実施等に合わせて基本時刻が自動的に変わります。

※タイムゾーンの設定を変更したいとき
- 電波が受信しやすい場所にいるとき
  タイムゾーン修正のしかた　P.20
- 電波が受信できない場所にいるとき
  基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた　P.23

※秒針の位置とタイムゾーンの関係について「タイムゾーン表示と時差一覧」P.12 を確認してください。

2 りゅうずを 2 段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている小時計のタイムゾーンを表示します。
インジケータ針は、小時計の DST（サマータイム）の状態を表示します。

＜インジケータ針の表示＞
DST（サマータイム）の状態を表示しています。

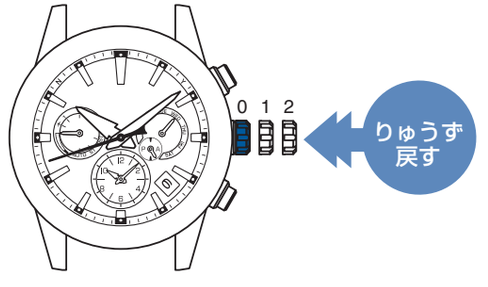
針の位置	AUTO（自動）	ST（解除）	DST（設定）
表示			

AUTO（自動）：
DST（サマータイム）を実施している地域において、タイムゾーン修正が成功した後、基本時計と小時計の入れ替えが実行された場合です。
小時計に設定されたタイムゾーン（地域）の DST（サマータイム）実施等に合わせて小時計が自動的に変わります。

※小時計のタイムゾーンの設定を変更したいとき
　小時計の手動タイムゾーン選択のしかた　P.26
※秒針の位置とタイムゾーンの関係について
　「タイムゾーン表示と時差一覧」P.12 を確認してください。

3 りゅうずを押し戻す

秒針が時刻表示に戻ります。
インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。



小時計の時刻を合わせる

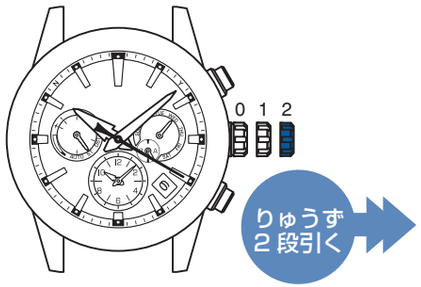
■ 小時計の手動タイムゾーン選択について

小時計は、タイムゾーンの中から選択して合わせます。
※タイムゾーンにない時刻には合わせられません。

■ 小時計の手動タイムゾーン選択のしかた

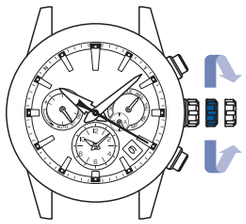
1 りゅうずを２段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている小時計のタイムゾーンを表示します。



2 りゅうずを回して秒針を目的地のタイムゾーンに合わせる

りゅうずを回すと秒針が動き、となりのタイムゾーンに移動します。



りゅうずを右に回すと＋１タイムゾーン移動します。

りゅうずを左に回すと－１タイムゾーン移動します。

＜インジケータ針の表示＞

DST（サマータイム）の設定または解除を表示しています。

針の位置	AUTO（自動）	ST（解除）	DST（設定）
表示			

※タイムゾーン選択の前に「AUTO（自動）」の場合も、新たなタイムゾーンを選択したときに、DST（設定）または ST（解除）に切り替わります。

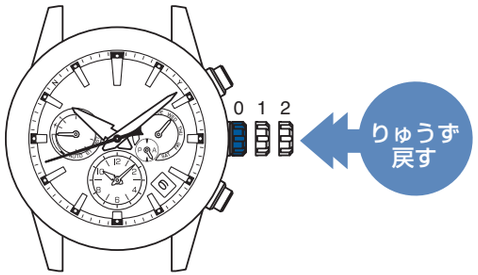
※小時計の DST（サマータイム）の設定が合っていないときは、「小時計の DST（サマータイム）の設定をする」 P.27 の 3 の操作で設定または解除に切り替えてください。

3 りゅうずを押し戻す

秒針が時刻表示に戻ります。

インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。

※時分針・インジケータ針・日付・曜日が動いている間は、ボタンの操作はできません。



■ 小時計の DST（サマータイム）の設定をする

手動で小時計を DST（サマータイム）に設定することができます。

※通常、手動タイムゾーン選択で合わせる小時計は、DST（サマータイム）が AUTO（自動）にはなりません。サマータイムの実行／解除の状況に応じて、手動で DST（サマータイム）の設定／解除を行ってください。

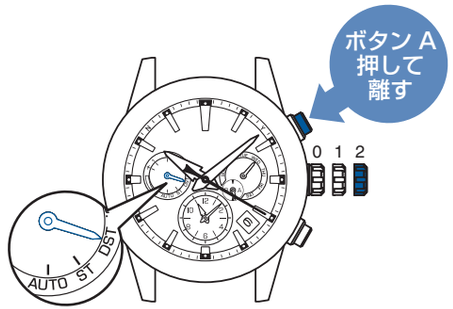
※基本時計と小時計の時刻を入れ替えた際に DST ＝ AUTO（自動）が小時計に反映している場合は、DST（サマータイム）の設定をする必要はありません。

1 りゅうずを 2 段引きだす

インジケータ針が小時計の DST（サマータイム）の設定を表示します。
秒針は現在の小時計のタイムゾーンを表示します。
＜ DST（サマータイム）の設定が解除の状態＞

2 ボタン A を押して、離す

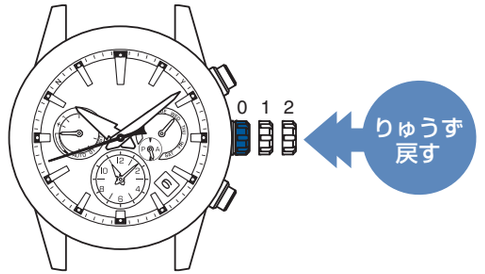
インジケータ針が動いて「DST」を指し、小時計の時分針が 1 時間進みます。



※オーストラリア領のロード・ハウ島ではサマータイム実施時、30 分時刻を進めています。

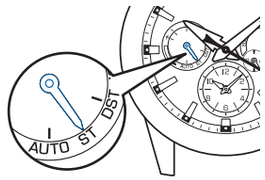
3 りゅうずを押し戻す

秒針が時刻表示に戻ります。
インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。



■ 小時計の DST（サマータイム）の設定を解除する

DST（サマータイム）が設定されているとき 1 ～ 3 の操作を行ってください。
2 の操作ではインジケータ針を右図の位置「ST（解除）」に合わせてください。
時分針が 1 時間戻ります。



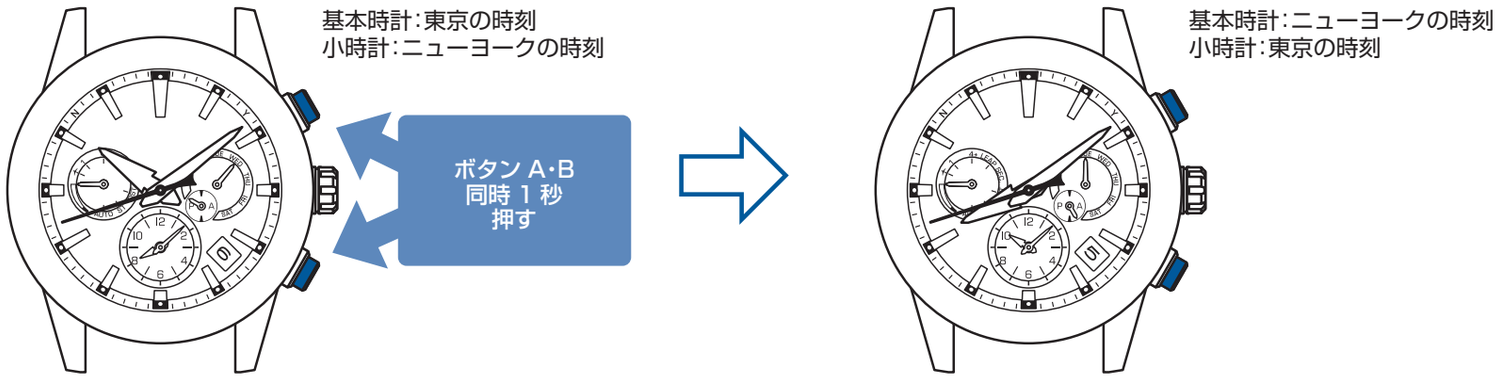
基本時計と小時計の入れ替え（タイムトランスファー機能）について

基本時計と小時計の入れ替えができます。
基本時計および小時計に設定されていた DST（サマータイム）の状態も一緒に入れ替わります。

こんなときに使用すると便利です。
- 小時計に設定されているタイムゾーンの時刻に基本時計を合わせる
- 基本時計を現地の時刻に合わせ使用し帰国後、小時計の日本時間に基本時計を戻す

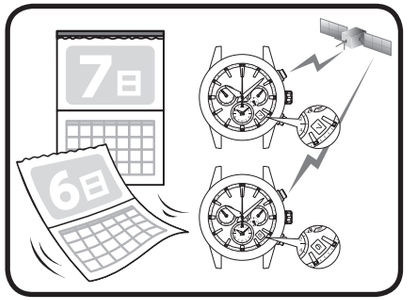
■ 基本時計と小時計の入れ替え方法

1 ボタン A・B を同時に押し続ける（1 秒）



秒針が切り替わった基本時刻のタイムゾーンを示し、インジケータ針が切り替わった基本時刻の DST（サマータイム）の設定状態を示します。
その後、基本時計の時分針、小時計、日付、曜日の順番で切り替わります。
最終的に、秒針が時刻表示に、またインジケータ針は充電量表示に戻ります。
※日付が変わる場合は、インジケータ針が何周も回りますが異常ではありません。
※時分針・インジケータ針・日付・曜日が動いている間は、ボタンの操作はできません。

スーパースマートセンサー（自動時刻修正）について



空が開けた屋外に出たときに明るい光が当たることで、自動的に GPS 電波を受信して時刻修正を行い、正確な現在時刻に合わせることができます。
また、空が開けた屋外でも、上着等に時計が隠れて文字板に光が当たらない場合には、前回強制時刻修正が成功した時刻を時計が記憶していて、同時刻に自動で時刻修正を行います。

※空が見えない場所では、GPS 電波を受信できません。→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.16

※エネルギーが十分にある状態であれば、毎日自動時刻修正を行います。

※自動時刻修正は、1 日に最大 2 回です（光を感知した時、および前回強制時刻修正が成功した時刻にそれぞれ最大 1 回）。受信に失敗しても、状況によってはもう一度行う場合があります。

※初期出荷状態では光感知による自動時刻修正しか行われないため、最初にご使用になる前に、日ごろ、空が開けた受信しやすい場所にいることが多い時間帯に強制時刻修正を成功させてください。

※自動時刻修正では、タイムゾーンの修正は行いません。
時計を使う地域が変わったときはタイムゾーン修正を行ってください　→ タイムゾーン修正のしかた　P.20

＜光が当たりにくいときは＞

空が開けた屋外でも、冬期など衣服に（時計が）隠れる時期や、日照時間が短い地域、天候などにより光に当たりにくい時間が続いたときは、最後に強制時刻修正が成功した時刻に自動時刻受信を行うようになっています。
上記のような使用環境が続く場合には、日ごろ、空が開けた受信しやすい場所にいることが多い時間帯に強制時刻修正を成功させておくと、自動時刻修正が成功しやすくなります。

→ 強制時刻修正のしかた P.22

ただし、下記の条件も考慮して自動時刻修正をはじめるか判断しているため、「光が当たること」または「強制時刻修正が成功した時刻」になると必ず自動時刻修正がはじまるということではありません。

- エネルギーの残量
- これまでの受信状況

※インジケータ針の位置が「少ない（エネルギー残量）」、機内モード（ ✈ ）のときは自動時刻修正がはたらきません。
「少ない（エネルギー残量）」を指しているときは、光をあてて充電してください。
→ 充電のしかた　P.14
→ エネルギー残量を確認する　P.13

※エネルギーが少なくなると、自動時刻修正を行わない間隔が長くなります。こまめな充電を心がけてください。

※自動時刻修正がはじまる前にタイムゾーン修正または強制時刻修正を行うとその日は自動時刻修正を行いません。

飛行機に乗るとき（機内モード(✈)について）

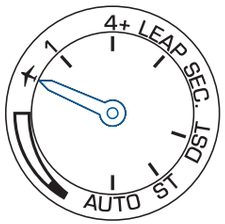
■ 機内モード(✈)について

飛行機内など他の電子機器の動作に影響を与える可能性がある場所では、機内モード(✈)状態にしてください。

機内モード(✈)状態にすると、GPS 電波受信（タイムゾーン修正・強制時刻修正、自動時刻修正）がはたらかないようになります。

＜機内モード(✈)状態＞

インジケータ針が ✈ を示します。



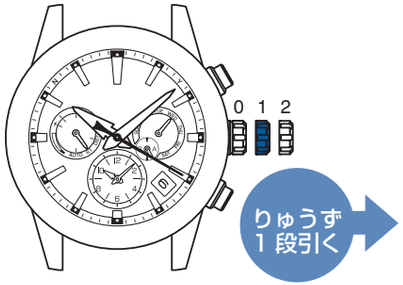
※機内モード(✈)が解除されると、インジケータ針はエネルギー残量を示します。

■ 機内モード(✈)状態にする

1 りゅうずを 1 段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている基本時計のタイムゾーンを表示します。

インジケータ針は基本時計の DST（サマータイム）の状態を表示します。



2 ボタン B を押し続ける（3 秒）

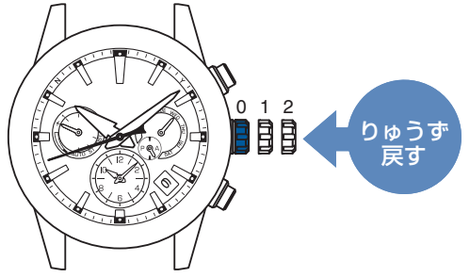
インジケータ針が機内モード(✈)を表示します。（5 秒間）

その後、DST（サマータイム）の状態を示します。

※ボタン A を押したり、りゅうずを回転すると操作 1 に戻ります。

3 りゅうずを押し戻す

インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。



機内モード(✈)状態になると、インジケータ針は「エネルギー残量」を示しません。

→ 飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき（手動タイムゾーン選択）P.23

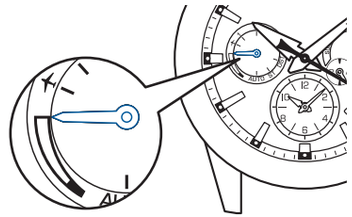
■ 機内モード(✈)状態を解除する

飛行機から降りた場合などは機内モードを解除してください。

解除しないと GPS 電波受信が行えません。

1 ～ 3 の操作を行ってください。

インジケータ針が右の図の位置「エネルギー残量表示」を示すと、機内モード(✈)が解除されます。



※エネルギー残量が「十分」の場合の例

うるう秒について(うるう秒自動受信機能)

うるう秒について

うるう秒は天文学的に決められた世界時(UT)と国際原子時(TAI)とのずれを補正するためのものです。

毎年～数年に 1 度、「1 秒」挿入(削除)されることがあります。

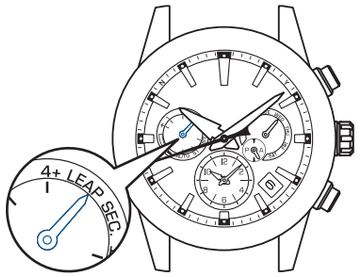
うるう秒自動受信機能について

「うるう秒情報」を GPS 衛星から電波を受信することにより、うるう秒の実施時刻になったときに、自動的にうるう秒が挿入(削除)されます。

※「うるう秒情報」には、今後のうるう秒実施の有無の情報と、現在のうるう秒情報が含まれています。

うるう秒情報の受信について(うるう秒情報受信)

＜うるう秒情報受信中＞



6 月 1 日と 12 月 1 日以降に GPS 電波受信(自動時刻修正、強制時刻修正またはタイムゾーン修正)行うと、インジケータ針が右のような表示になることがあります。

うるう秒情報の受信が終了するとインジケータ針がエネルギー残量表示に戻りますので、そのままお使いください。

※うるう秒情報の受信は、うるう秒の実施に関わらず半年ごとに行います。

うるう秒情報の受信が終了するまで、時刻修正(自動時刻修正または強制時刻修正)終了後、最大 18 分かかります。

以下の状況で GPS 電波受信をしたときも、うるう秒情報の受信をはじめます。

- 長期間、GPS 電波受信をしなかったとき
- うるう秒情報の受信に失敗したとき

  次の GPS 電波受信で再度うるう秒情報の受信を行います。うるう秒情報の受信が成功するまで行います。「うるう秒情報」の結果(成否)を確認してください。

  → うるう秒情報の受信ができているか確認する P.32

うるう秒情報の受信ができているか確認する

定期的に行っている「うるう秒情報受信」の結果（成否）を 5 秒間表示します。

1 ボタン A を押して、離す

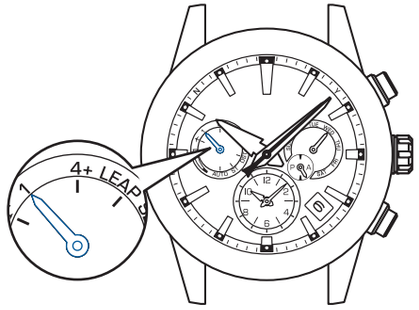
秒針とインジケータ針が受信結果を表示します。

※ボタン A を押し続けると強制時刻修正の動作に入ります。

2 受信の結果が表示される

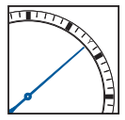
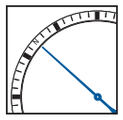
秒針が GPS 電波受信（時刻修正またはタイムゾーン修正）の結果を表示します。

インジケータ針は、その時の受信方法（「1」または「4+」）を指します。



※タイムゾーン修正の場合は「4+」を指します。

秒針：受信結果（成否）

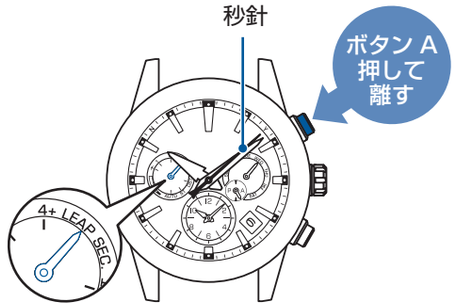
結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	Y：8 秒位置	N：52 秒位置

※5 秒経過、またはボタン B を押すと時刻表示に戻ります。

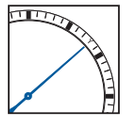
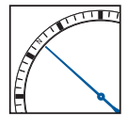
3 2 の「受信の結果」が表示されている（5 秒）間に再度ボタン A を押して、離す

秒針が「うるう秒情報受信結果」（成否）を示します。

インジケータ針は、「うるう秒情報受信」の下のような位置を指します。



秒針：受信結果（成否）

結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	Y：8 秒位置	N：52 秒位置

※ボタン A を押し続けると強制時刻修正の動作に入ります。

※5 秒経過、またはボタン B を押すと時刻表示に戻ります。

うるう秒情報受信の結果が Y（成功）になったときは

- うるう秒情報受信ができています。
  そのままお使いください。

うるう秒情報受信の結果が N（失敗）になったときは

- 定期的に行なう「うるう秒情報受信」がまだできていない状態です。
  次の GPS 電波受信（自動時刻修正、強制時刻修正またはタイムゾーン修正）のタイミングで自動的に行ないますので、そのままお使いいただけます。

※「うるう秒情報」は、6 月 1 日と 12 月 1 日以降に情報を受信するしくみになっています。

※「うるう秒情報受信」ができていない状態でも、「うるう秒の挿入（削除）」が実施されるまでは、時刻は正確です。

必要に応じて屋外などの、GPS 電波が受信しやすい場所で受信させてください。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

秒針の動きと時計の状態(エネルギー切れ予告機能)

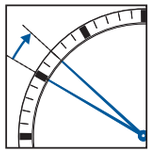
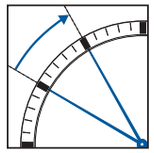
秒針の動きから、時計の状態(はたらいている機能)がわかります。

■ 2 秒運針・5 秒運針になっている

エネルギー残量が少ないと、エネルギー切れ予告機能がはたらきます。

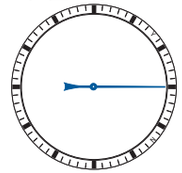
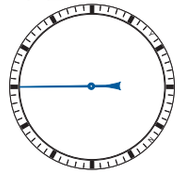
エネルギーが不足しているときは光をあてて充電をしてください。→ 充電のしかた　P.14

※エネルギー切れ予告機能がはたらいているときは、ボタンを操作しても作動しません。
(故障ではありませんので、ご安心ください。)

	2 秒運針	5 秒運針
状況	秒針が 2 秒ごとに運針している 	秒針が 5 秒ごとに運針している 
機能・表示の制限	• GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 • 自動時刻修正がはたらかない。	• 時針・分針・日付・曜日・小時計が停止 • GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 • 自動時刻修正がはたらかない。
このようにしてください	① まずは 1 秒運針になるまで光をあてて充電を行ってください。 → 充電のしかた P.14 ② インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで充電をすることを心がけてください。(インジケータ針が「少ない」を指しているときは GPS 電波受信ができません。) → エネルギー残量を確認する P.13	① インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで充電をしてください。 → エネルギー残量を確認する P.13 ② タイムゾーン修正をして、時刻を合わせてください。 → タイムゾーン修正のしかた P.20

■ 秒針が 15 秒位置・45 秒位置で停止している(パワーセーブ機能)

光があたらない状態が続くと、パワーセーブ(節電)機能がはたらきます。

	パワーセーブ 1	パワーセーブ 2
状況	秒針が 15 秒の位置で停止 	秒針が 45 秒の位置で停止 
機能・表示の制限	• 時針・分針・日付・曜日・小時計が停止 • 自動時刻修正は行わない。	• 時分針・日付、曜針、小時計が停止(日付は「1」に、曜針は「SUN」(日曜)に、小時計は 12:00 AM になる) • GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 • 自動時刻修正は行わない。 • インジケータ針が「少ない」を指している。
原因	光があたらない状態が 72 時間以上続いた	充電不足の状態が長く続いた
対処のしかた	• 5 秒以上光をあてる、またはいずれかのボタンを押すと針が早送りされて現在時刻に戻ります	① インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで充電をしてください。 → エネルギー残量を確認する P.13 ② 各針の基準位置合わせをしてください。 → 小時計・曜針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる P.46 ③ タイムゾーン修正をして、時刻を合わせてください。 → タイムゾーン修正のしかた P.20

パワーセーブ 2 について

※充電をした場合、充電中は【5 秒運針】になります。【5 秒運針】の間はボタンの操作ができません。

※長時間続くと、エネルギー残量の低下により、内部で記憶されていた現在時刻の情報が失われます。

お手入れについて

●日ごろからこまめにお手入れしてください

- りゅうずを引き出して洗わないでください。
- 水分や汗、汚れはこまめに柔らかい布でふき取るように心がけてください。
- 海水につけた後は、必ず真水でよく洗ってからふき取ってください。
  その際、直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。

※「非防水」、「日常生活用防水」の場合は、おやめください。
→ 性能と型式について P.34
→ 防水性能について P.34

●りゅうずは時々回してください

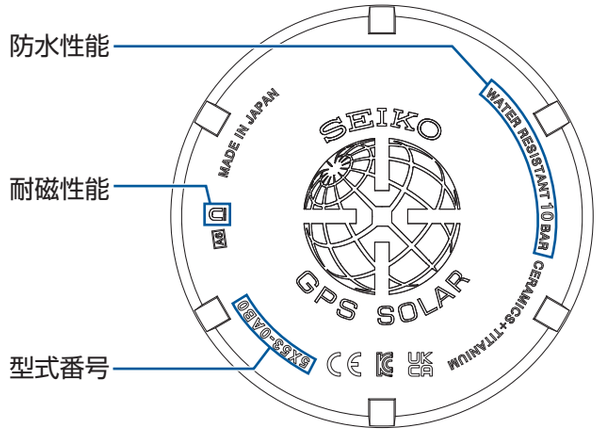
- りゅうずのさびつきを防止するために、時々りゅうずを回してください。

●ボタンは時々押してください

- ボタンのさびつきを防止するため、時々ボタンを押してください。

性能と型式について

時計の裏ぶたで性能と型式の確認ができます。



- 防水性能
P.34 を参照ください。
- 耐磁性能
P.35 を参照ください。
- 型式番号
お客様の時計の種類を示す番号です。

※上の図は例であり、お買い上げいただいた時計とは異なる場合があります。

防水性能について

お買い上げいただいた時計の防水性能を下記の表でご確認の上ご使用ください。

裏ぶた表示	防水性能	お取扱方法
WATER RESISTANT 10(20)BAR	日常生活用強化防水で 10(20)気圧防水です。	水泳などのスポーツに使用できます。 空気ボンベを使用しないスキンダイビングに使用できます。

耐磁性能について（磁気の影響）

この時計は、身近にある磁気の影響を受け、時刻が狂ったり止まったりします。

※この時計は、磁気により時刻が狂っても、「針位置自動修正機能」によって自動的に針位置を修正します。
（P.45 ）

この時計は JIS1 種相当の耐磁性能があります。

⚠注意

磁気製品より、5cm 以上遠ざけてご使用ください。

磁気を帯びたことが原因で、携帯使用時の精度めやす範囲を超えている場合、磁気の除去および精度の再調整作業は、保証期間にかかわらず有料とさせていただきます。

この時計が磁気の影響を受ける理由

内蔵されているモーターは磁石を使用しており、外からの強い磁気の影響を受けます。

時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例

スマートフォン・携帯電話・タブレット端末
（スピーカー部、カバーのマグネット部）

AC アダプター

バッグ
（磁石の止め金）

交流電気
シェーバー

電磁調理器

携帯ラジオ
（スピーカー部）

磁気ネックレス

磁気健康枕

バンドについて

バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いとバンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そで口の汚れなどの原因になります。
長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。

●金属バンド

- ステンレスバンドも水や汗・汚れをそのままにしておくと、さびやすくなります。
- 手入れが悪いと、かぶれやワイシャツのそで口が黄色や金色に汚れる原因になります。
- 水や汗・汚れは、早めに柔らかな布でふき取ってください。
- バンドのすき間の汚れは、水で洗い、柔らかな歯ブラシなどで取り除いてください。
  （時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護してください。）
  残った水分は柔らかな布でふき取ってください。
- チタンバンドでも、ピン類には強度に優れたステンレスが使用されているものがあり、ステンレスからさびが発生することがあります。
- さびが進行すると、ピンの飛び出しや抜けが発生し、時計を脱落させてしまうことがあります。また、逆に中留が外れなくなることがあります。
- 万が一、ピンが飛び出している場合は、けがをするおそれがありますので、ただちに使用をやめて修理をご依頼ください。

●皮革バンド

- 水や汗、直射日光に弱く、色落ちや劣化の原因になります。
- 水がかかったときや汗をかいた後は、すぐに乾いた布などで、吸い取るように軽くふいてください。
- 直接日光にあたる場所には放置しないでください。
- 色の薄いバンドは、汚れが目立ちやすいので、ご使用の際はご注意ください。
- 時計本体が日常生活用強化防水 10(20)気圧防水になっているものでも、アクアフリーバンド以外の皮革バンドは、水泳・水仕事などでのご使用はお控えください。

●ポリウレタンバンド

- 光で色があせたり、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。
- 特に半透明や白色・淡い色のバンドは、他の色を吸着しやすく、また変色をおこします。
- 汚れたら水で洗い、乾いた布でよくふき取ってください。
  （時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護してください。）
- 弾力性がなくなったら取り換えてください。そのまま使い続けるとひび割れが生じバンドが切れやすくなります。

●シリコンバンド

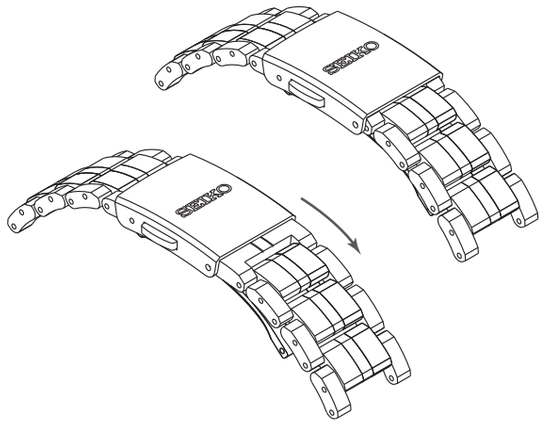
- 材料の特性上、バンドに汚れがつきやすく、しみこんだりして、変色を生じることがあります。汚れた場合は、ぬれた布やウェットクリーニングティッシュ等ですぐにふきとってください。
- 他の材料に比べ、亀裂が生じた場合そこから切れてしまう恐れがあります。先の鋭い刃物などで傷つけない様、ご注意ください。

かぶれやアレルギーについて	バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。
バンドサイズのめやすについて	バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。 時計をつけた状態で、指一本入る程度が適当です。

スマートアジャスター機構つき中留(なかどめ)の使いかた

バンド長さ(微調整)ができるスマートアジャスター機構つき中留を用いたものがあります。
お買い上げの時計の中留が、図のような中留のときは下記の操作方法を参照にしてください。

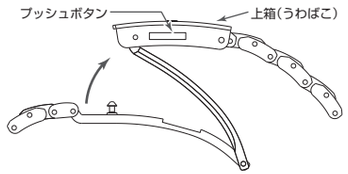
※最大約 5 mm 長くすることができます。
バンドが密着する等、不快に感じる場合には便利な機構です。



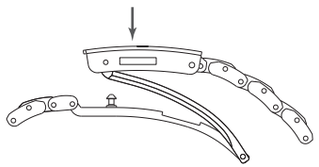
●バンドの着脱(中留の開閉)について

1 プッシュボタンを軽く押して中留を開きます。

※プッシュボタンを強く(深く)押すとスマートアジャスター機構が作動し、バンドが長くなりますのでご注意ください。

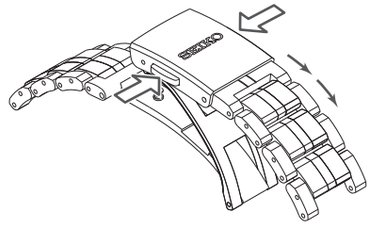


2 上箱を上からしっかり押さえて留めます。



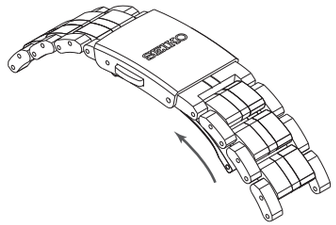
●バンドの長さを調節するには

1 プッシュボタンを両方から強く(深く)押すと、スマートアジャスター機構が作動し、バンドが(2 段階)最大約 5 mm 長くすることができます。



2 中留の上箱をしっかり押さえて留めます。

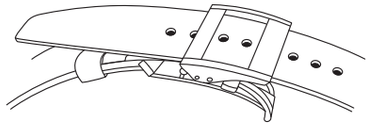
※中留を閉じた状態でも、スマートアジャスター機構で長くなった分を戻すことができます。



※上の図は例であり、お買い上げいただいた時計の仕様とは異なる場合があります。

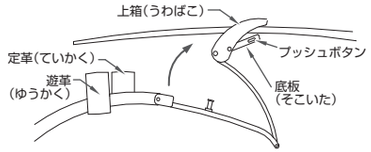
三つ折れ式中留(なかどめ)の使いかた

バンドには、調整可能な三つ折れ式中留を用いたものがあります。
お買い上げの時計の中留が、図のような中留のときは下記の操作方法を参照してください。

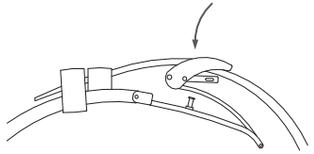


●着脱のしかた

1 プッシュボタンを両側から押しながらバンドを定革・遊革から抜いて、中留を開きます。

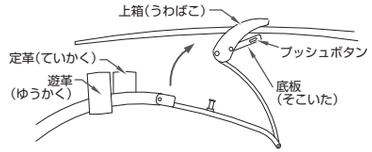


2 バンドの剣先(先端)を定革・遊革に入れてから、上箱を上からしっかり押さえて留めます。

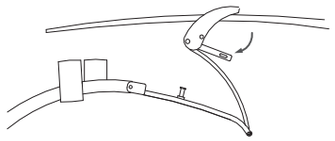


●バンドの長さを調節するには

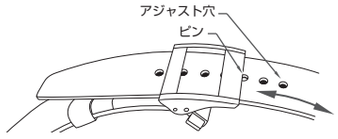
1 プッシュボタンを両側から押しながらバンドを定革・遊革から抜いて、中留を開きます。



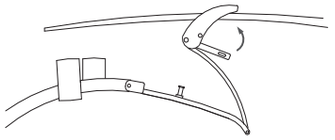
2 もう一度プッシュボタンを押し、底板を下に開きます。



3 ピンをアジャスト穴から外します。バンドを左右にスライドさせ、適切な長さのところで、ピンをアジャスト穴に入れます。



4 底板を閉めます。

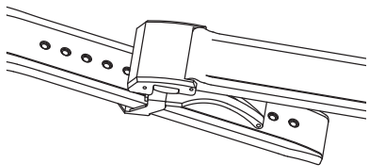


※上の図は例であり、お買い上げいただいた時計の仕様とは異なる場合があります。

三つ折れ式中留(剣先潜りタイプ)の使いかた

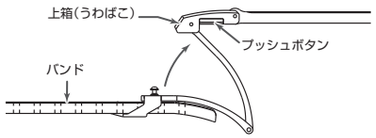
ラバーバンドおよび一部レザーバンドには、図のようにバンドの剣先が下潜りするタイプの調整可能な三つ折れ式中留(剣先潜りタイプ)を用いたものがあります。

お買い上げの時計の中留が、図のような中留のときは下記の操作方法を参照してください。

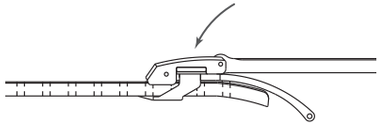


●着脱のしかた

1 上箱のプッシュボタンを両側から押しながら中留を上に開きます。

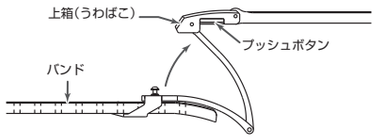


2 上箱を上からしっかり押さえて留めます。

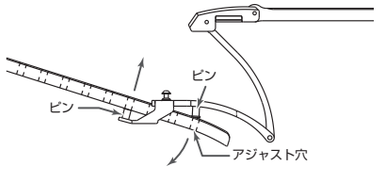


●バンドの長さを調節するには

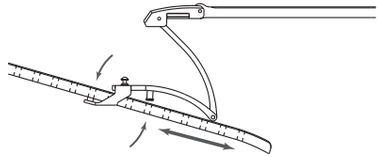
1 プッシュボタンを両側から押しながらバンド中留を開きます。



2 2か所のピンをアジャスト穴から外します。



3 バンドを左右にスライドさせ、適切な長さのところで、再び2か所のピンをアジャスト穴にしっかり押し込みます。



※上の図は例であり、お買い上げいただいた時計の仕様とは異なる場合があります。

ルミブライトについて

お買い上げの時計がルミブライトつきの場合

ルミブライトは、太陽光や照明のあかりを短時間（約 10 分間：500 ルクス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約 3 時間～5 時間）発光します。光が当たらなくなってから輝度（明るさ）は、時間の経過とともに弱まります。なお、光を蓄える際の光の強さや光の吸収度合いとルミブライトの面積によって、発光する時間や見え方に差が生じます。

※一般的には明るい所から暗い所へ入った場合、人の目はすぐには順応しません。初めはものが見にくいですが、時間の経過と共に見やすくなってきます。（目の暗順応）

※ルミブライトは、放射能などの有害物質をまったく含んでいない環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）塗料です。

＜照度のめやすについて＞

環境		明るさ（照度）のめやす
太陽光	晴れ	100,000 ルクス
	くもり	10,000 ルクス
屋内（昼間窓際）	晴れ	3,000 ルクス以上
	くもり	1,000～3,000 ルクス
	雨	1,000 ルクス以下
照明（白色蛍光灯 40W の下で）	1m	1,000 ルクス
	3m	500 ルクス（通常室内レベル）
	4m	250 ルクス

使用電源について

この時計には、一般の酸化銀電池とは異なる専用の二次電池を使用しています。
二次電池とは、乾電池やボタン電池のような使い捨ての電池とは異なり、充電と放電をしながら繰り返し使用可能な電池です。

長期的な使用や使用環境により、容量や充電効率が少しずつ低下する場合があります。
また、長期間使用すると、機械部品の磨耗や汚れ、潤滑油の劣化等によって持続時間が短くなる場合があります。性能が低下し始めたら修理にお出しください。

⚠警告

二次電池交換時のご注意

- 二次電池は取り出さないでください。
  二次電池の交換には専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
- 一般の酸化銀電池が組み込まれると、破裂、発熱、発火などのおそれがあります。

※過充電防止機能

フル充電までの所要時間を超えて充電しても、時計が破損することはありません。
二次電池がフル充電になると、それ以上充電されないように、自動的に過充電防止機能がはたらきます。

※フル充電までの所要時間については「充電にかかる時間のめやす」 P.14 を参照してください。

⚠警告

充電時のご注意

- 充電の際、撮影用ライト、スポットライト、白熱ライト(球)などに、近づけ過ぎると、時計が高温になり内部の部品等が損傷を受けるおそれがありますのでおやめください。
- 太陽光にて充電する際も、車のダッシュボード等では、かなりの高温となり故障の原因となる場合がありますので、おやめください。
- 時計が 60℃以上にならないようにしてください。

※長期間充電されない状態が続いたとき

長期間充電されない状態が続くと、完全に放電してしまい、充電できなくなってしまうことがあります。その場合はお買い上げ店にご相談ください。

アフターサービスについて

●保証と修理について

- 修理や点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際は、お買い上げ店、または弊社お客様相談室にご依頼ください。
- 保証期間内に不具合が生じた場合は、必ず保証書を添えてお買い上げ店へお持ちください。
- 保証内容は保証書に記載したとおりです。
  保証書をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 保証期間終了後については、修理によって機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理させていただきます。

●補修用性能部品について

- この時計の補修用性能部品の保有期間は、通常 7 年を基準としています。補修用性能部品とは、時計の機能を維持するために必要な修理用部品です。
- 修理の際、外観の異なる代替部品を使用させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

●点検調整のための分解掃除（オーバーホール）について

- 長くご愛用いただくために、3 年～4 年に 1 度程度の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）をおすすめします。ご使用状況によっては、機械の保油状態が損なわれたり、油の汚れなどによって部品が磨耗し、止まりにいたることがあります。
  またパッキンなどの部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。
  点検調整のための分解掃除（オーバーホール）は、「純正部品」とご指定の上、お買い上げ店にご依頼ください。その際、パッキンやばね棒の交換もあわせてご依頼ください。
- 点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際には、ムーブメント交換となる場合もあります。

GPS 電波の受信ができないとき

■ 確認していただきたいこと

GPS 電波受信の操作をしても受信がはじまらない、受信ができないときは、
以下のことが考えられます。

●GPS 電波受信(タイムゾーン修正・強制時刻修正)の操作をしても受信がはじまらない

- インジケータ針の位置を確認してください。

✕ 受信できない状態

インジケータ表示	エネルギー残量表示 少ない	機内モード(✈)
操作	ボタン B を押して、離す	りゅうずを 1 段引く
表示		
このようにしてください	光をあてて、「中くらい」または「十分」になるまで充電してください。 → 充電のしかた P.14	機内モード(✈)を解除してください。 → 機内モード(✈)状態を解除する P.30

●GPS 電波受信(タイムゾーン修正・強制時刻修正)の操作をしても、受信ができない(受信結果表示が「N」になる。)

- 受信しやすい場所で GPS 電波受信をしてください。
  → 受信しやすい場所・受信できない場所 P.16

●受信終了前に秒針が 45 秒位置で停止する(パワーセーブ 2 の状態になる)

- 充電容量や充電効率が低下した状態のときに低温下(0℃以下)で GPS 電波受信を行うと、受信を中止し、パワーセーブ 2 の状態になることがあります。
  GPS 電波受信にはたくさんのエネルギーを消費します。こまめに光を当て充電をすることを心がけてください → 充電のしかた P.14
  このような現象がたびたび起こるようであれば、お買い上げ店にご相談ください。

電波が受信できない環境で時刻を合わせる(手動時刻合わせについて)

■ 手動時刻合わせについて

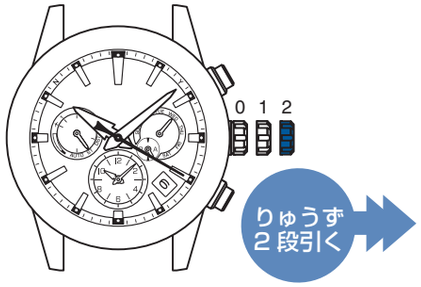
「確認していただきたいこと」を行っても問題が解決しないときや、電波が受信できない環境で時刻がずれてしまい、その後も受信ができない状況が続く場合は手動で時刻を合わせてください。

手動時刻合わせのしかた

- 再び受信可能な環境で使うときは、電波を受信して時刻を合わせてください。
- 時刻を修正するときは、日付が連動して動きます。

1 りゅうずを２段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている小時計のタイムゾーンを表示します。



2 ボタンＢを押し続けて(６秒)秒針が０秒位置に移動したら離す

※ボタン B を押して 3 秒後に、秒針は 36 秒位置に移動しますが、そのまま押し続けてください。

秒針が 0 秒位置に移動し、停止します。

手動時刻合わせのモードに入ります。

※手動時刻合わせのモードに入ると、電波受信結果のデータが失われるため、受信結果を確認しても「N」と表示されます。

3 りゅうずを回して時刻を合わせる

右に回すと時刻が進みます。

すばやく回すと連続で動きます。
もう一度回すと止まります。

左に回すと時刻が戻ります。

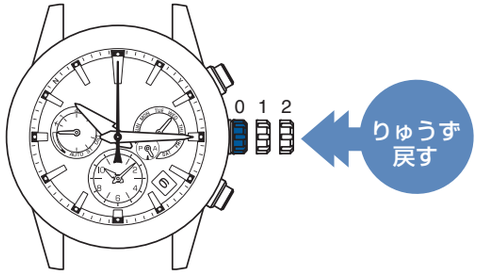
※連続で動いた場合は、12 時間で 1 度停止します。続けて合わせる場合は、りゅうずを回してください。

※日付が変わるときが、午前 12 時です。午前・午後に注意して合わせてください。

4 時報などに合わせてりゅうずを押し戻す

操作は完了です。

時計が動きはじめます。



※このとき、修正された時刻に従い小時計も修正されます。

※電波が受信できない場合でも、通常のクオーツ時計と同じ精度でお使いいただけます。(平均月差±15 秒)

※手動時刻合わせの後で電波を受信したときは、受信した時刻を表示します。

小時計、曜針、日付、インジケータ針、時・分・秒針の位置がずれているとき

■ 確認していただきたいこと

●受信はできている（受信結果表示は「Y」になる）が、時刻がずれている

- タイムゾーンの設定を確認してください。
  → タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する　P.25
  タイムゾーンが今いる場所と違うときは、いずれかの操作でタイムゾーンを合わせてください。
  受信がしやすい場所にいるとき→ タイムゾーン修正のしかた　P.20
  受信ができない場所にいるとき→ 基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた　P.23

- DST（サマータイム）の設定を確認してください。
  → タイムゾーンと DST（サマータイム）の設定を確認する　P.25
  DST（サマータイム）の設定と今いる場所の DST（サマータイム）の実施状況が合っていないときは、「基本時計の DST（サマータイム）の設定をする」　P.24 で合わせてください。

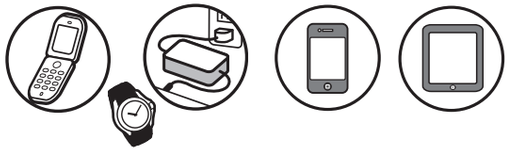
- スーパースマートセンサー（自動時刻修正）が数日間はたらいていない可能性があります。
  → スーパースマートセンサー（自動時刻修正）について　P.29
  エネルギー残量が少なかったり環境によっては自動時刻修正がはたらきにくいことがあります。
  すぐに時刻を合わせたいときは「タイムゾーン修正のしかた」　P.20 で時刻を合わせてください。

■ 基準位置について

電波受信に成功しても時刻・日付が合わないときや、小時計、曜針、インジケータ針の指す位置がずれていることは基準位置がずれていると考えられます。

基準位置がずれる理由は、以下の原因が考えられます。

落とす、強くぶつけるなどの強い衝撃



磁気を発するものによる影響
→ 時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例　P.35

【針の基準位置がずれている】状態とは、体重計に例えると「メーターのゼロ位置が合っていないために、正しい体重が表示できない」ということです。

■ 時・分・秒針・インジケータ針の基準位置合わせ（針位置自動修正機能）

時・分・秒・インジケータ針には、基準位置がずれたときに自動的に修正する「針位置自動修正機能」があります。

針位置自動修正機能がはたらくのは、時針は 12 時間に 1 回（午前・午後 12 時）、分針は 1 時間に 1 回、秒針は 1 分に 1 回、インジケータ針は 24 時間に 1 回（午前 12 時）です。

※この機能は、衝撃や磁気による影響（外的要因）で、針がずれてしまったときにはたらきます。
　時計の精度や製造上の微細なずれを修正する機能ではありません。

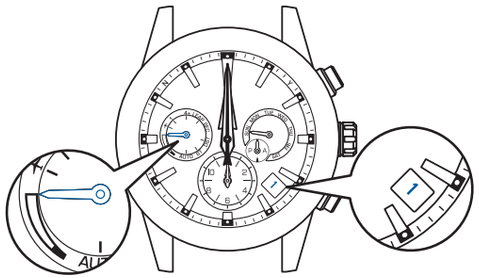
※時分針とインジケータ針の基準位置は手動でも修正することができます。
　→ 小時計・曜針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる　P.46

■ 小時計・曜針・日付の基準位置合わせ

小時計・曜針・日付の基準位置は自動では修正されないため、手動で合わせる必要があります。
→ 小時計・曜針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる P.46

この時計の基準位置について

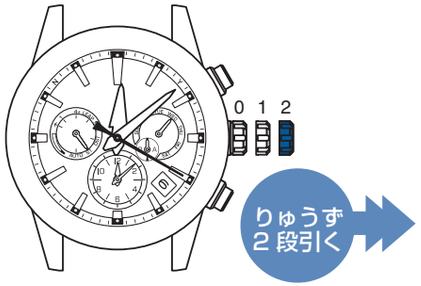
日付の基準位置は「1」(1 日)です。
インジケータ針の基準位置は「十分」です。
時分針の基準位置は「12:00 AM」です。
小時計と AM/PM 針の基準位置は「12:00 AM」です。
曜針の基準位置は「SUN(日曜)」です。



小時計・曜針・日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる

1 りゅうずを２段引きだす

秒針が動いて、現在設定されている小時計のタイムゾーンを表示します。



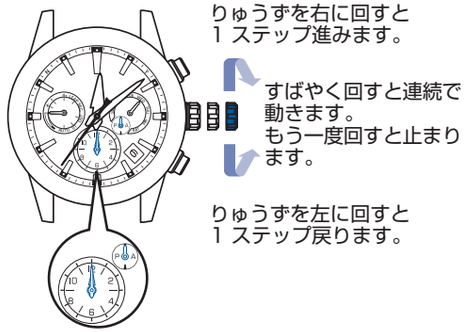
2 ボタン B を押し続ける(３秒)

小時計の基準位置合わせのモードに入ります。

秒針が 36 秒位置で止まります。
小時計と AM/PM 針が回って基準位置を示して止まります。

3 りゅうずを回して小時計と AM/PM 針を「12:00 AM」に合わせる

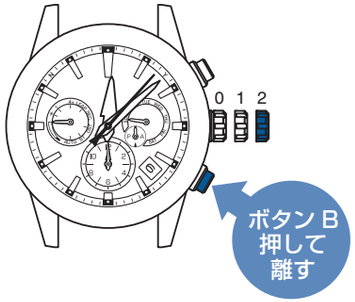
※小時計と AM/PM 針が、「12:00 AM」の場合は、操作 4 へ



このとき、小時計と AM/PM 針が連動して動きます。
正しく「12:00 AM」に合わせてください。

4 ボタンＢを押して、離す

曜針（曜日）の基準位置合わせのモードに入ります。

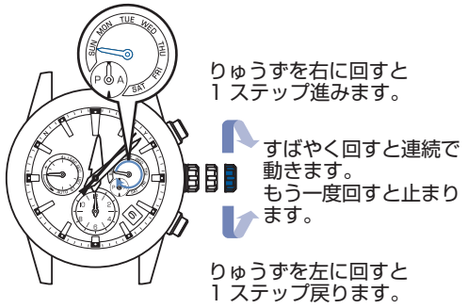


秒針が 7 秒位置で止まります。

曜針（曜日）が回って基準位置を示して止まります。

5 りゅうずを回して曜針（曜日）を「SUN（日曜）」に合わせる

※SUN（日曜）が表示している場合は、操作 6 へ



※曜針は、1 周しますが異常ではありません。

6 ボタンＢを押して、離す

日付（とインジケータ針）の基準位置合わせのモードに入ります。

※日付が動いている間は、ボタン操作はできません。

秒針が 18 秒位置で止まります。

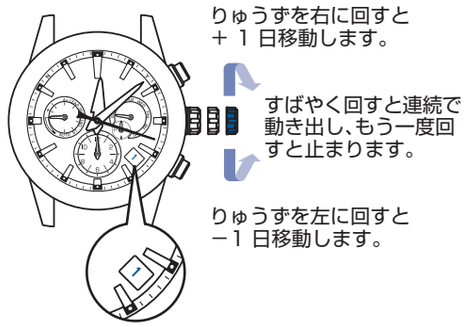
インジケータ針が動いて、針位置自動修正を行ない「十分」の位置を示します。その際、時計周りや反時計周りに動きますが、異常ではありません。さらにインジケータ針が回り続けて、日付の基準位置を示して止まります。

日付はインジケータ針が回ることで動きます。

7 りゅうずを回して日付を「1」に合わせる

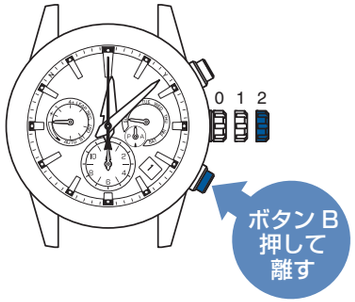
日付「1」を表示するように合せてください。

※日付「1」が表示されている場合は、操作 8 へ



8 ボタンＢを押して、離す

時分針の基準位置合わせモードに入ります。



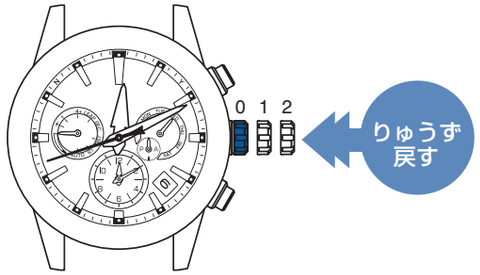
秒針が 0 秒位置で止まります。

9 ボタンＡを押し続ける（3 秒）

時分針が動き「12:00 AM」に停止します。

10 りゅうずを押し戻す

基準位置合わせのモードが終了し、秒針と時分針が動き始めます。



11 GPS 電波を受信して時刻を合わせる

GPS 電波が受信しやすい場所にいるときはタイムゾーン修正をしてください。

→ タイムゾーン修正のしかた P.20

1〜10 までの操作が終了したら、必ず時刻を合わせてください。

GPS 電波が受信できない環境にいるとき

① 手動でタイムゾーン選択をする

→ 基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた P.23

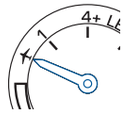
② 手動で時刻を合わせる

→ 手動時刻合わせのしかた P.44

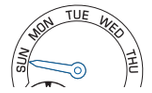
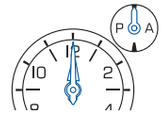
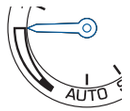
時刻を合わせたら操作は終了です。

こんなときは

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
針の動き	秒針が 2 秒ごとに運針している 秒針が 5 秒ごとに運針している	エネルギー切れ予告機能がはたらいている。(P.33) 毎日身につけていて、この現象が起こる場合は、携帯中に時計が衣類の袖の中に隠れているなど、十分に光があたっていないことが考えられます。	秒針が 1 秒ごとに運針し、インジケータ針が「中くらい」または「十分」を指すまで、十分な充電をしてください。 中くらい 携帯中は、なるべく時計が袖などに隠れないように気をつけてください。 また、時計を外した際にもなるべく明るい場所に置くことを心がけてください。	P.13 P.14
	秒針が 15 秒位置で停止している状態から動きだした	パワーセーブ 1 がはたらいていた。(P.33) 光があたらない状態が続いた場合、無駄なエネルギーの消費を抑えるパワーセーブ 1 がはたらきます。	光があたると、針が早送りされて現在時刻に戻ります。 現在時刻に戻ったら、そのままお使いください。(異常な動きではありません。)	–
	秒針が 45 秒位置で停止している状態から動きだした	パワーセーブ 2 がはたらいていた。(P.33) 充電不足の状態が長く続いたときは、パワーセーブ 2 がはたらきます。	① インジケータ針が「中くらい」または「十分」になるまで、充電をしてください。 ② その後、時刻が合っていない場合は、必要に応じてタイムゾーン修正をしてください。	P.13 P.14 P.19 ～20
	ボタン操作をしていないのに針が早送りされ、その後は 1 秒ごとに運針している	パワーセーブ機能がはたらいていた。(P.33) 針位置自動修正機能がはたらいた。 外部からの影響などで針がずれた場合には、針位置自動修正機能がはたらいて自動的に針のずれを直します。	そのまま何もせずにお使いください。(異常な動きではありません。)	–
	インジケータ針が、「LEAP SEC.」を指している	うるう秒自動受信機能がはたらいている。(P.31) 	受信が終わるまで最長 18 分かかります。 「受信しやすい場所」 P.16 を心がけてお使いください。	P.31
	インジケータ針が、回り続けている	日付が変わるとき(午前 12 時)や針位置自動修正がはたらくときにインジケータ針が回り続けます。	そのまま何もせずにお使いください。(異常な動きではありません。)	–

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
GPS 電波受信	タイムゾーン修正・強制時刻修正の操作をしても受信がはじまらない	エネルギー残量表示が「少ない」になっている。(P.11)	エネルギー残量表示が「中くらい」または「十分」になるまで、十分な充電をしてください。 中くらい	P.13
		機内モード(✈)状態になっている。(P.30) 	電波の使用制限のある場所(飛行機内など)から移動したら、機内モード(✈)を解除してください。	P.30
	GPS 電波受信をしても受信ができない(受信結果表示が「N」になる)	受信できない場所にいる。(P.16)	受信しやすい場所で受信をしてください。	P.16
	受信はできている(受信結果表示が「Y」になる)が、時刻・日付がずれている(時刻修正後の受信結果としてわかるとき)	今いる場所と異なるタイムゾーンが設定されている。	タイムゾーンの設定を確認してください。 タイムゾーンが今いる場所と違うときは、タイムゾーンを合わせてください。 ・ 受信しやすい場所にいるとき → タイムゾーン修正のしかた P.20 ・ 受信ができない場所にいるとき → 基本時計の手動タイムゾーン選択のしかた P.23	P.25 P.20 P.23
		DST(サマータイム)の設定と今いる場所のサマータイムの実施状況が合っていない。	DST(サマータイム)の設定を確認してください。 受信しやすい場所にいるときは、タイムゾーン修正をしてください。 → タイムゾーン修正のしかた P.20	P.25 P.20
	受信はできている(受信結果表示が「Y」になる)が、時刻・日付がずれている(タイムゾーン修正後の受信結果としてわかるとき)	DST(サマータイム)の設定と今いる場所のサマータイムの実施状況が合っていない。	DST(サマータイム)の設定を確認してください。 受信しやすい場所にいるときは、タイムゾーン修正をしてください。 → タイムゾーン修正のしかた P.20	P.25 P.20
		外部からの影響で針の位置がずれている。 針の基準位置がずれている。 → 基準位置について P.45	① <時分針のずれ>針位置自動修正機能がはたらいて、自動的に修正されます。何もせずにそのままお使いください。針位置自動修正機能は、秒針は 1 分に 1 回、分針は 1 時間に 1 回、時針は 12 時間に 1 回です。 <日付のずれ>基準位置が自動では修正されないため、手動で合わせてください。 ② 針のずれが修正されない場合は、「小時計、曜針、日付、インジケータ針、時・分・秒針の位置がずれているとき」を参照し、操作をしてください。 ③ ② の操作を行なっても、針のずれが修正されない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.45 P.46
	受信結果表示が「Y」になるが、1〜2 秒ずれている	自動時刻修正が数日はたらいていない。	エネルギーが十分でないと自動時刻修正がはたらく間隔が 3 日に 1 回になることがあります。	P.29

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
GPS 電波受信	自動時刻修正が毎日はたらいていない	エネルギーが十分にない。 自動時刻修正がはたらく環境・条件になっていない。	自動時刻修正が毎日はたらくようになるには、エネルギーが必要です。こまめに光を当て充電することを心がけてください。受信しやすい場所にいる際に強い光が当たることで、自動時刻修正がはたらきます。	P.29
	自動受信が有効にはたらかない	光があたるタイミングで受信できる環境にいない。	光により自動的に受信を始める機能以外に、光が当たらない環境においても「強制時刻修正」の成功時刻に「自動時刻修正」をはたらかせる機能を備えています。通常、受信できる環境にいると思われる時間帯で、「強制時刻修正」を成功させておくことをおすすめします。スーパースマートセンサーが状況を判断し、光を受けない場合でも自動時刻修正がはたらきます。	P.22
時刻、針のずれ	「受信結果表示」や「捕捉衛星数表示」を示す秒針の位置がずれている	秒針の基準位置がずれている。(外部からの影響などにより秒針の位置がずれているときに起こります。) → 基準位置について P.45	① 針位置自動修正機能がはたらいて、自動的に修正されます。何もせずにそのままお使いください。針位置自動修正機能がはたらくのは、秒針は 1 分に 1 回です。 ② 針のずれが修正されない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.45
	時計が一時的に進む、または遅れる	自動時刻修正が数日間はたらいていない。	エネルギーが十分でないと自動時刻修正がはたらく間隔が 3 日に 1 回になることがあります。 すぐに時刻を合わせたいときは強制時刻修正を行ってください。	P.29 P.22
		外部からの影響で間違った時刻を受信した。(誤受信)	① より受信しやすい場所で受信するようにしてください。 ② 必要に応じてタイムゾーン修正をしてください。	P.16 P.20
		時計を暑いところ、または寒いところに放置した。	① 常温に戻れば元の精度に戻ります。 ② その後、時刻が合っていない場合は、必要に応じて強制時刻修正をしてください。 ③ 元に戻らない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.22
	1 時間時刻が進んでいる(遅れている)	DST(サマータイム)の設定(解除)になっている。	DST(サマータイム)の設定を確認してください。 受信しやすい場所にいるときは、タイムゾーン修正をしてください。 → タイムゾーン修正のしかた P.20	P.25 P.20
充電	止まっていた時計を充電しても 1 秒運針にならない	あてる光が弱い。 充電時間が短い。	照度によって充電にかかる時間は変わります。 「充電にかかる時間のめやす」を参考に、充電を行なってください。	P.14
	フル充電までの時間以上に充電しても秒針が停止している	長時間充電されない状態が続き、完全放電してしまった。	お買い上げ店にご相談ください。	−
日付のずれ	受信成功後、時刻は合っているが日付が合っていない	日付の基準位置がずれている。 外部からの影響などにより、日付の基準位置がずれているときに起こります。	日付の基準位置を正しい位置「1」(1 日)にしてください。	P.46 ～48

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
曜針(曜日)のずれ	受信成功後、時刻は合っているが正しい曜日を示さない	曜針(曜日)の基準位置がずれている。 外部からの影響などで、曜針の基準位置がずれているときに起こります。	曜針(曜日)の基準位置を正しい位置「SUN(日曜)」にしてください 	P.46 ～48
小時計が合わない	受信成功後、基本時刻は合っているが、小時計に選択してあるタイムゾーンの時刻を示さない	小時計の基準位置がずれている。 外部からの影響などで、小時計の基準位置がずれているときに起こります。	小時計と AM/PM 針の基準位置を正しい位置「12:00 AM」にしてください。 	P.46 ～48
インジケータ針のずれ	受信方法、エネルギー残量、機内モード(✈)、DST 表示の針の位置がずれている	うるう秒自動受信機能がはたらいてインジケータ針が「LEAP SEC.」を指している。	うるう秒情報の受信が終わるまで最長 18 分かかります。 受信しやすい場所 P.16 を心がけてお使いください。	P.31
		インジケータ針の基準位置がずれている。 外部からの影響などにより、インジケータ針の基準位置がずれているときに起こります。	インジケータ針の基準位置を正しい位置「十分」にしてください。 	P.46 ～48
操作	ボタン、りゅうずが機能しない(操作しても動かない)	エネルギー残量が少なくなっている。	秒針が 1 秒ごとに運針するまで、十分な充電をしてください。	P.14
		設定の操作の直後で、日付が動いている途中である。	何もせず、そのままお待ちください。日付の動きが止まれば操作できるようになります。	–
	設定中に操作がわからなくなった	–	りゅうずが引き出されている場合 ① りゅうずを戻してください。 ② 最大 6 分で秒針が動きます。 ③ その後で、改めて操作をやりなおしてください。	–
			りゅうずが引き出されていない場合 ① ボタン B を押してください。 ② 最大 2 分で秒針が動きます。 ③ その後で、改めて操作をやりなおしてください。	–
その他	ガラスのくもりが消えない	パッキンの劣化などにより時計内部に水が入った。	お買い上げ店にご相談ください。	–

索　引

時刻を合わせるための機能

GPS 電波受信 → P.16

タイムゾーン修正機能……GPS 衛星からの電波を受信して、ボタン操作ひとつで今いる場所のタイムゾーンを特定し、DST（サマータイム）も含む正確な現在時刻を表示します。
→ P.19　タイムゾーンの異なる地域に行ったときに使います。

強制時刻修正機能……GPS 衛星からの電波を受信して、設定されているタイムゾーンの正確な現在時刻を表示します。
→ P.21　普段使っていて正確な時刻に合わせたいときに使います。

スーパースマートセンサー……GPS 衛星からの電波の受信に適しているタイミングを時計の内部で判断し、自動的に電波の受信を始めます。
（自動時刻修正機能）　設定されているタイムゾーンの正確な現在時刻を表示します。
→ P.29

手動タイムゾーン選択……タイムゾーン修正ができない場所などで、手動で基本時計のタイムゾーンを変更することができます。
→ P.23　小時計も手動タイムゾーンの選択により時刻を合わせて使います。

DST（サマータイム）設定……手動で基本時計と小時計の DST（サマータイム）を設定することができます。
→ P.24

充電に関する機能

ソーラー充電機能……文字板の下にあるソーラーセルで、光を電気エネルギーに換え、充電します。フル充電で約 6 ヶ月間動きつづけます。
→ P.14

エネルギー残量表示機能……電池残量を大まかに表示します。受信できるかどうかもわかります。
→ P.13

パワーセーブ機能……光があたらない状態が続いたときに、無駄なエネルギーの消費を抑えます。
→ P.33

受信に関する機能

機内モード（✈）.....GPS 電波受信がはたらかなくなる機能です。
→ P.30 飛行機に乗るときなどに設定します。

捕捉衛星数表示機能.....GPS 電波受信中に、現在何基の GPS 衛星から受信しているかを秒針で表示します。
→ P.20

受信結果表示機能.....最新の受信結果（成否）を表示します。
→ P.18

タイムゾーン確認機能.....現在設定されているタイムゾーンを表示する機能です。
→ P.25

その他の機能

デュアルタイム表示機能.....基本時計の時刻とは別の地域の時刻を 6 時位置にある小時計（12 時間制）と AM/PM 針にて表示します。
→ P.26

針位置自動修正機能.....磁気など外部からの影響で針がずれた場合に、自動的にずれを直します。
→ P.45

うるう秒自動受信機能.....うるう秒の受信が必要なときに自動的にうるう秒情報を受信します。
→ P.31

基本時計と小時計の入れ替え機能.....基準時計と小時計の時刻を入れ替えることができます。DST も入れ替えできます。
→ P.28

製品仕様

1. 基本機能	基本時計（時・分・秒針）、日付表示、曜日表示、インジケータ機能、デュアルタイム表示機能（AM/PM 針つき）、ワールドタイム機能（39 タイムゾーン）
2. 水晶振動数	32,768 Hz（Hz=1 秒間の振動数）
3. 精度	平均月差 ±15 秒以内（電波受信による時刻修正が行なわれない場合、かつ気温 5℃～35℃において腕に着けた場合）
4. 作動温度範囲	−10℃～+ 60℃
5. 駆動方式	ステップモーター式：基本時計（時針、分針、秒針）、曜針、インジケータ針・日付、小時計（時・分・AM/PM 針）
6. 使用電源	専用二次電池：1 個
7. 持続時間	約 6 ヶ月（フル充電で、パワーセーブが作動しない場合） ※フル充電をした状態からパワーセーブが作動した場合は最大約 2 年
8.GPS 電波受信機能	タイムゾーン修正、強制時刻修正、自動時刻修正 ※受信から次の受信までは上記クオーツの精度で動く
9. 電子回路	発振、分周、駆動、受信回路：IC 4 個

通話料無料 0120-612-911
< ONLY IN JAPAN >

お客様相談室
〒 100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1 国際ビル
〒 550-0013 大阪市西区新町 1-4-24 大阪四ツ橋新町ビルディング

セイコーウオッチ株式会社
https://www.seikowatches.com/

※仕様は改良のため予告なく変更することがあります。